

FM Stereo/SW/MW/LW PLL Synthesized Receiver Stereo Cassette-Corder

取扱説明書

お買い上げいただき、ありがとうございます。



電気製品は安全のための注意事項を守らないと、
火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、製品
を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られ
るところに必ず保管してください。

Operating Instructions

KKKKKK

*ICF-SW1000T
ICF-SW1000TS*

こんなことができます

ラジオ

- 世界中の放送が受信できます。
- PLL(Phase ^{フェーズ} Locked ^{ロックト} Loop^{ループ}の略)シンセサイザー方式を採用し、簡単に正確な選局ができます。
- 国内では以下の放送が受信できます。(詳しくは付属のウェブハンドブックおよびハウトゥキャッチザウェブをご覧ください。)
 - テレビ音声 : 1~3ch(90~108MHz)
 - FM : 76~90MHz
 - SW(短波) : 国内外の短波放送、業務用通信など
1621~29999kHz
 - MW(中波) : 530~1620kHz
 - LW(長波) : ロシアなどの長波放送の一部、ラジオビーコン(航空無線標識局、船舶無線標識局)など
150~529kHz
- 目的に合わせて4種類の選局方法で受信できます。
- 手動で少しずつ周波数を調節する、マニュアル選局。
- 自動的に放送局を探す、スキャン選局。
- 周波数を直接指定して選局する、ダイレクト選局。
- あらかじめ放送局を登録しておき、ワンタッチで選局できる、プリセット選局。

- 内蔵のタイマーで、好きな時間にラジオを受信するスタンバイ機能、自動的に電源を切るスリープタイマー。
- 付属のステレオヘッドホンでFM放送、テープがステレオで楽しめます。

カセットコーダー

- 録音/再生リバースデッキ
 - 聞いているラジオをワンタッチで録音できるほか、マイクでも録音可能。
 - 内蔵のタイマーで好きな時間にラジオが録音できます。
- 音を聞きながら早送り、巻き戻しができる、キュー・レビュー機能。

MW(中波)放送の周波数ステップ(間隔)について

このラジオは、MW放送の受信間隔(周波数ステップ)が工場出荷時9kHzに設定されています。しかし、北米や南米では、放送局の周波数が10kHz間隔で設定されているため、そのような地域でMW放送を聞くときは、周波数ステップを変更してください(19ページ)

北米、南米の国々 : 10kHz

その他の国々 : 9kHz

録音についてのご注意

- 録り直しのきかない録音の場合は、必ず事前にためし録りをしてください。
- ステレオカセットコーダーの不具合により録音されなかった場合の録音内容の補償については、ご容赦ください。
- あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断では使用できません。

ソニー株式会社 〒141-0001 東京都品川区北品川6-7-35

お問い合わせはお客様ご相談センターへ

東京(03)5448-3311 名古屋(052)232-2611 大阪(06)539-5111

目次

乾電池を入れる	4
時計を合わせる	5
ラジオを聞く—スキャン選局	6
テープを聞く	8
ラジオを録音する	10

ラジオ

いろいろな受信のしかた	
少しずつ周波数を調整する	
— マニュアル選局	12
周波数を直接指定する	
— ダイレクト選局	14
周波数を記憶させる	
— プリセット選局	15
SSBやCWを受信する	17
AM放送を良い状態で受信する	
— 同期検波	18
海外で使う—MW周波数ステップの切り換え	19
外部アンテナを使う	20

テープ

マイクで録音をする	22
-----------	----

タイマー

ラジオで目覚める	
— スタンバイ機能	24
ラジオを聞きながら眠る	
— スリープタイマー	26
留守中にラジオを録音する	
— タイマー録音	27

便利な使いかた

誤操作を防ぐ—ホールド機能	29
ストラップをつける	30

電源

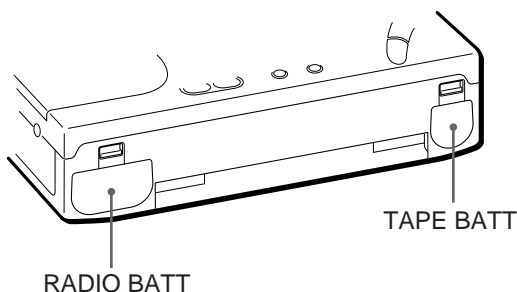
乾電池を交換する	31
コンセントや車で使う	32

その他

各部の名称	33
使用上のご注意とお手入れ	38
故障かな?と思ったら	39
保証書とアフターサービス	41
主な仕様	42
ミニ知識	43

乾電池を入れる

ここでは乾電池での使いかたを説明します。
テープを使うときは2か所に乾電池を入れて
ください。



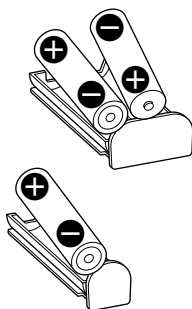
コンセントやカーバッテリーで使うには → コンセントや車で使う (32ページ)

1



オープン
OPENつまみを押し上げて、
電池入れを引き出す。

2



ラジオ
単3形乾電池を**RADIO**
バッテリー
BATT側に2本、**TAPE**
テープ
BATT側に1本入れる。
バッテリー

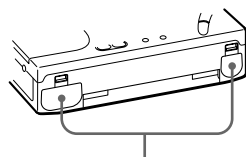
ご注意

ラジオだけ使うときはTAPE BATT側に電池を入れる必要はありませんが、テープを使うときは、RADIO BATT側、TAPE BATT側両方に電池を入れてください。
どちらか一方では動きません。

表示に合わせて
+・-を正しく
入れる

3

両方の電池入れを本体に差し込む。



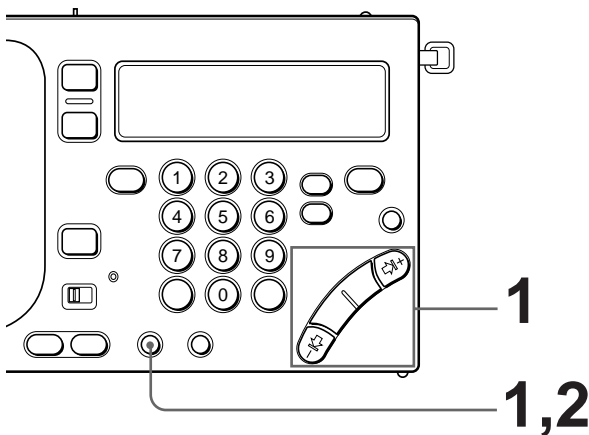
カチッと音がするまで
差し込む

ちょっと一言

付属の乾電池はお試し用です。ご使用の際にはアルカリ乾電池をおすすめします。

時計を合わせる

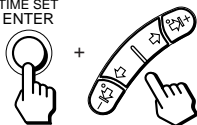
はじめて電池を入れたときや時計がリセットされたときには、表示窓に「0:00」が点滅しますので、時計を合わせてください。



時計を合わせる
乾電池を入れる

1

TIME SET
ENTER



タイム セット エンター
TIME SET・ENTERを押し
たまま、アワー HOURまたはミニット MINを
くり返し押して時刻を合わせ
る。

MIN(←または→)を1回押すたびに
1分ずつ、HOUR(-|←または
⇒|+)を押すたびに1時間ずつ変わ
ります。

押し続けると速く変わります。

2

**TIME SET・ENTERから指
を離す。**

「:」が点滅し始め、時計が動き出しま
す。



ちょっと一言

- 本機の時計は24時間表示です。
- 「0:00」の点滅を止めるには、TIME SET・ENTERを押します。
- 秒まで正確に合わせるには、電話の時報サービス(117)をご利用になると便利です。

ラジオ受信中やテープ操作中に時刻を見るには

エクゼキュート EXEを押します。もう一度EXEを押すか約10秒たつと元の表示に戻ります。ただし、ラジオのスク্যান選局中は時計表示にはなりません。

ご注意

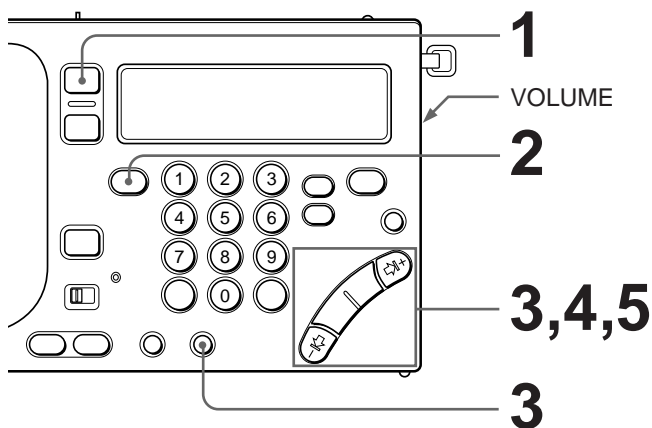
ラジオやテープを聞いているときは時計合わせはできません。

RADIO POWER ON/OFFを押してラジオを切るか、■を押してテープを止めてください。

時計を合わせる

5J

ラジオを聞く—スキャン選局



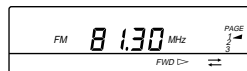
周波数を少しずつ変えて選局するには→「マニュアル選局（12ページ）
 周波数を直接指定して選局するには→「ダイレクト選局（14ページ）
 放送局を覚えさせるには→「プリセット選局（15ページ）」

1



ラジオ パワー オン オフ
RADIO POWER ON/OFF
 を押す。

ラジオの電源が入ります。

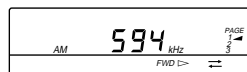


2

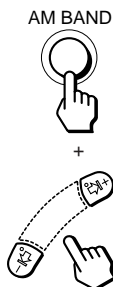


FM/AMを押してFMまたは
AMを選ぶ。

短波（SW） 中波（MW） 長波（LW）
 を聞くときはAMにします。

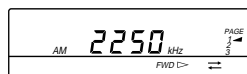


3



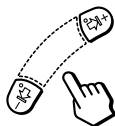
AMを選んだときは、**AM**
 バンド
BANDを押したまま←→ま
 たは⇒|+を押して、**MW**（中
 波） **LW**（長波）またはメー
 ターバンド（短波）を選ぶ。

FM放送を聞く場合は手順4に進んで
 ください。



各バンドの最小
 周波数が表示される

4

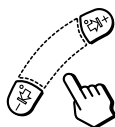


—|←または⇒|+を押したままにし、数字が動き始めたら指を離す。

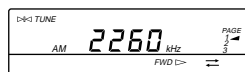
放送局を自動的に受信して、約2秒間止まり、次の放送局を探します(スキャン選局)。

バンドまたはメーターバンド内でスキャンをくり返します(13ページ)。また、SSB受信時は150~29999kHzの間でスキャンをくり返します。

5



聞きたい局が受信されたところで、—|←または⇒|+を押してスキャンを止める。



ちょっと一言

- 短波放送のメーターバンドおよび各バンドのスキャン選局の範囲については13ページをご覧ください。
- ヘッドホンを使うと、FMステレオ放送を楽しむことができます。またST・MONOスイッチでステレオとモノラルを切り換えることができます。
- ニュース番組などを聞くときは、TONEスイッチをNEWSに合わせると、人の声などが聞きやすくなります。音楽番組を聞くときはMUSICに合わせます。
- 電波の強い夜間のMW放送など、自動受信で止まるところが多すぎるときや混信が多いときは、SENSスイッチをLOCALにしてください。電波の弱い局をとばします。通常はDXにしておきます。

ご注意

受信状態が良くならない場合は、外部アンテナを接続してください。(20ページ)

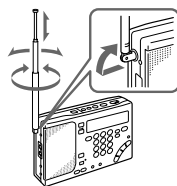
その他の操作

こんなときは	使うつまみ、押すボタン
周波数を微調整する	— ←、←、⇒、⇒ +
音量を調節する	ボリューム VOLUME
ラジオの電源を切る	RADIO POWER ON/OFF

受信状態を良くするには

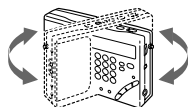
FM放送

ロッドアンテナを伸ばして向きや角度を変えます。



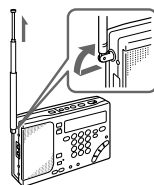
MW、LW放送

内蔵のパーアンテナが動くので、ロッドアンテナをたたみ、本体の向きを変えます。

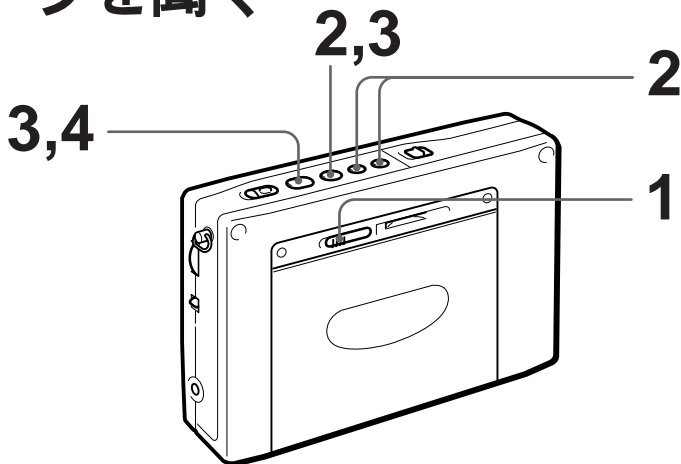


SW放送

ロッドアンテナを垂直いっばいに伸ばす。



テープを聞く

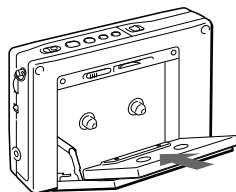


1



オープン
OPENつまみをずらして、カセットを入れる。

テープのたるみを取り、テープが見える側を下にして入れます。

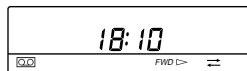


2



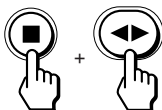
片面再生か両面再生かを選ぶ。

片面再生：■を押したままFFを押す。
両面再生：■を押しながらREWを押す。



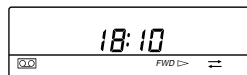
⇒ : 片面再生
↔ : 両面再生

3



■を押したまま◀▶を押して、聞く面を選ぶ。

ふた側の面(フワード面)を聞くには：「FWD▶」を表示させる
本体側の面(リバース面)を聞くには：「◀REV」を表示させる



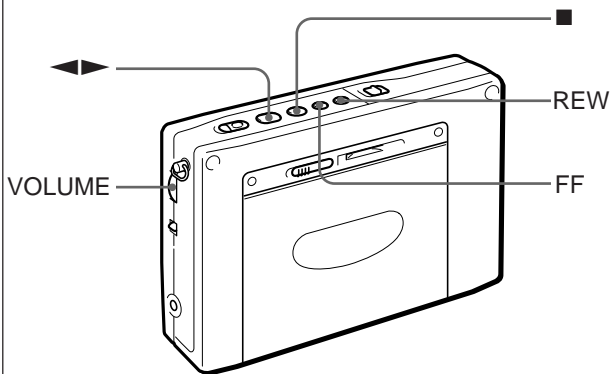
4



▶▶を押す。



その他の操作



ご注意

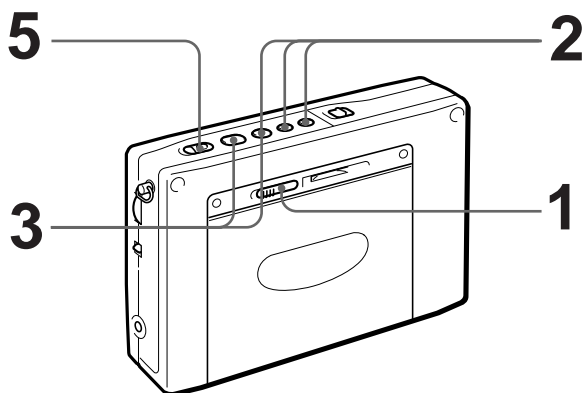
REV面から再生を始めたときは、REV面のみを再生します。

ちょっと一言

- ヘッドホンを使うと、ステレオ録音されたテープをステレオで楽しめます。またST・MONOスイッチでステレオとモノラルを切り換えることができます。
- 本機はATS (Auto Tape Selector) 機能により、再生時のみ、ノーマルテープとCrO₂/メタルテープを自動的に判別します。

こんなときは	押すボタン、使うつまみ
音量を調節する	VOLUME
再生面を切り換える	再生中に◀▶
テープを止める	■
早送りする	停止中にFF
巻き戻しする	停止中にREW
音を聞きながら早送りする (キュー)	再生中にFF
音を聞きながら巻き戻しする (レビュー)	再生中にREW

ラジオを録音する



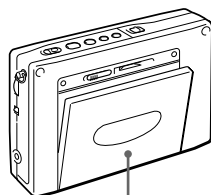
マイク録音をするときは→「マイクで録音をする」(22ページ)

1

カセットを入れる。

ご注意

カセットを入れる前に、カセットのツメが折れていないことを確認してください。ツメが折れていると録音できません。



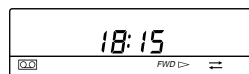
録音を始めた面をふた側にして入れる

2

片面録音か、両面録音かを選ぶ。



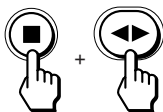
片面録音：■を押したままFFを押す
両面録音：■を押したままREWを押す



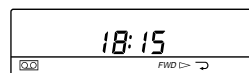
⇨ 片面録音
⇩⇨ 両面録音

3

テープ走向面をふた側にする。



■を押したまま◀▶を押して「FWD ▷」を表示させます。

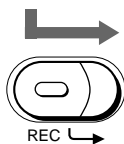


4

ラジオを受信する。

(6,12~16ページ参照)

5



レコード
RECを中央の赤いボタンを押しながら、矢印の方向にずらす。



数秒後に周波数表示に戻る

ご注意

- 録音するテープにはTYPE I (ノーマル)テープをお使いください。CrO₂/メタルテープを使うと、再生する音がひずんだり、前の録音が消えずに残ったりすることがあります。
- 電池が消耗していると、録音に雑音が入ったり、性能を十分に発揮できないことがあります。なるべく早めに乾電池を新しいものと交換してください。
- RECボタンは録音開始の2秒くらい前に押してください。直前に押すと最初の部分が録音されません。
- 録音中は◀▶ボタンを押しても、録音する面を切り換えることはできません。
- 録音中、ラジオの操作ボタンは働きます。誤操作を防ぐにはホールド機能を働かせてください。(29ページ)

ちょっと一言

- 録音される音はVOLUMEつまみやTONEスイッチの設定に影響されません。
- 録音中、スピーカーから聞こえる音はモノラルです。FMステレオ放送をステレオで聞きたいときはヘッドホンをお使いください。
- RADIO POWER ON/OFFを押してラジオの電源を切ると、録音も自動的に止まります。

録音を止めるには

■を押します。

本体側の面 (REV面) を録音するには

録音したい面を本体側にしてカセットを入れ、テープ走行面をREV面(「◀REV」が点灯)にします。

録音は、片面/両面の設定に関らず、REV面だけで終わります。

FMステレオ放送を録音するときは

ST・MONOスイッチをSTに合わせるとステレオで、MONOに合わせるとモノラルで録音されます。

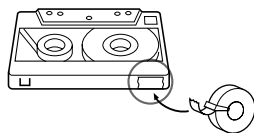
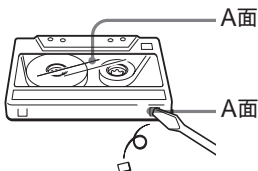
AM放送を良い音で録音するには

AM放送を録音中、ラジオを聞いていたときには出なかった雑音聞こえるときは、本体底面にあるISSスイッチを雑音が消える位置(1、2または3)に切り換えてください。


大切な録音を守るには

ツメを折って取り除きます。

再び録音するには、穴をふさぎます。



セロハンテープ

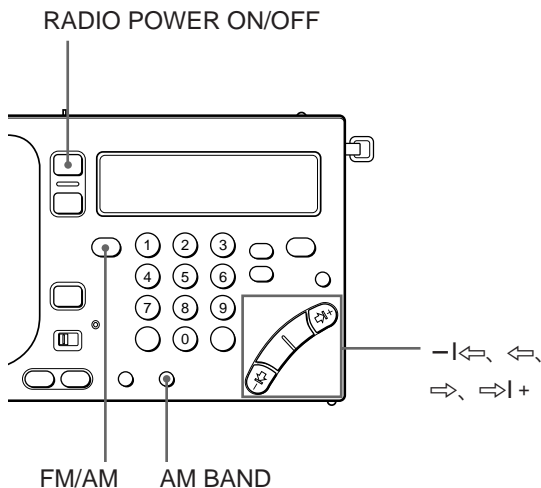
ツメを折ったカセットテープを入れてRECボタンを押すと「」表示が点滅して、録音できません。

いろいろな受信のしかた

少しずつ周波数を調整する

—マニュアル選局

—|←、⇒|+ または ←、⇒ ボタンで周波数を送ります。外側のボタンでは大きく、内側のボタンでは細かく周波数が変わります。



ちょっと一言

電源を入れると、前に聞いていた放送局を受信します。

- 1** ラジオの電源を入れる。
- 2** FMまたはAMを選ぶ。
SW、MW、LWを聞くときはAMにします。
- 3** AMを選んだときは、AM BANDを押したまま —|← または ⇒|+ ボタンを押して、MW、LWまたはメーターバンドを選ぶ。
FM放送を聞く場合は手順4に進んでください。

ちょっと一言

- - |⇐または⇒| + ボタンを押したままにすると、スキャン選局になります。(6ページ)
- ⇐または⇒ボタンを押したままにすると、周波数が速く進み、離すと止まります。
AMバンド(MW、SW、LW)では、150～29999kHzの範囲で周波数が連続して変わりません。

ご注意

- 実際の短波 SW の放送バンドと本機のメーターバンドは多少異なります。詳しくはウェーブハンドブックをご覧ください。
- このラジオは、内部スプリアス(ラジオ内部に使われている発振器の信号を受信すること)により、3.64MHzの周波数付近では受信しにくいことがあります。

4 - |⇐、⇒| + または ⇐、⇒ ボタンをくり返し押しして、聞きたい局を探す。

ボタンを押すたびに、次の間隔で周波数が変わります。

バンド	- ⇐または⇒ +	⇐または⇒
FM	0.05MHz	0.05MHz
SW	5kHz	1kHz
MW	9kHzまたは10kHz	1kHz
LW	9kHz	1kHz
SSB	1kHz	0.1kHz*

* 0.1kHzの単位は表示窓には表示されません

各バンド・メーターバンドの周波数範囲

(単位：AMはkHz、FMはMHz)

放送バンド	周波数範囲	スキャン選局時	メーターバンド	
AM	LW	150～529	153～522	-
		MW	530～1620	530～1620**
			531～1620***	-
	SW	1621～29999	2250～2550	120メーター
			3150～3450	90メーター
			3850～4050	75メーター
			4700～5100	60メーター
			5900～6250	49メーター
			7100～7400	41メーター
			9400～10000	31メーター
			11500～12150	25メーター
			13500～13900	22メーター
			15000～15700	19メーター
			17450～18000	16メーター
	18850～19100	15メーター		
21450～21950	13メーター			
25600～26100	11メーター			
FM	76.00～108.00	76.00～108.00	-	

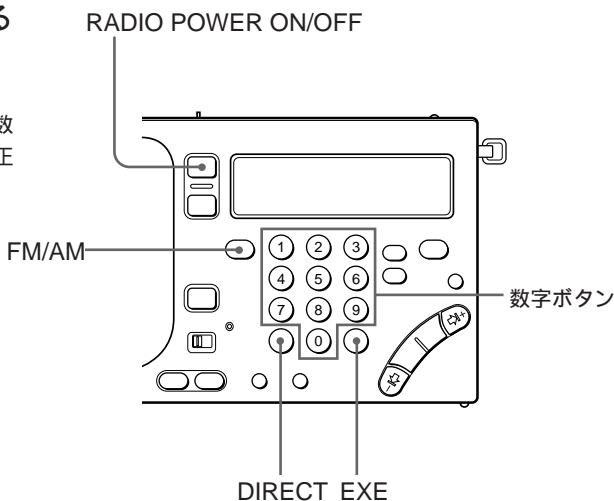
** 周波数ステップが10kHzのとき(19ページ)

*** 周波数ステップが9kHzのとき(19ページ)

いろいろな受信のしかた(つづき)

周波数を直接指定する —ダイレクト選局

周波数がわかっているときは、数字ボタンで入力すればすばやく正確に選局できます。



入力を間違えたときは

DIRECTを押すと入力を取り消されます。手順3から操作をやり直してください。

「TRY AGAIN!」が点滅したら

選んだバンドの受信可能周波数以外の周波数を入力しています。周波数を確かめて、手順3から操作をやり直してください。

ちょっと一言

最小入力桁は、FMが0.05MHz(50kHz)で、AMが1kHzです。

ご注意

手順3～5の各操作は10秒以内に行なってください。途中で、それまで聞いていた周波数の表示に戻ったら、もう一度手順3から操作をやり直してください。

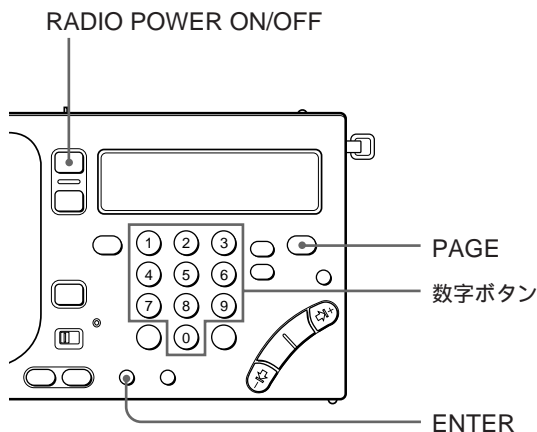
- 1 ラジオの電源を入れる。
- 2 FMまたはAMを選ぶ。
- 3 DIRECTを押す。
表示窓の周波数表示が消えます。
- 4 数字ボタンを押して、聞きたい放送局の周波数を入力する。
FMの場合：小数点を入力する必要はありません。
例)84.7MHzのときは、8 4 7の順に押します。
AMの場合：周波数の最後に0が3つ続くときは省略できます。
例)10000kHzのときは、1 0の順に押します。
- 5 EXEを押して決定する。
放送を受信すると「▷◁ TUNE 」表示が点灯します。

いろいろな受信のしかた(つづき)

周波数を記憶させる

—プリセット選局

このラジオには、周波数を記憶させておく場所(ページと呼ぶ)が3つあり、各ページにFMまたはAM局を10局ずつ、合計30局記憶できます。



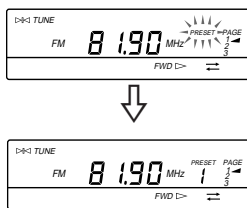
- 1 ラジオの電源を入れる。
- 2 記憶させたい放送局を受信する。
- 3 PAGEをくり返し押して、記憶させたいページを選ぶ。
PAGE を押すごとに1 2 3の順でページが切り換わります。
- 4 ENTERを押したまま、数字ボタンの0から9のいずれかを押す。

ちょっと一言

記憶させた放送局を変更するには放送局を変更したいボタンに、別の放送局を記憶させます。

前に記憶させていた放送局は消えます。

例)1ページの1番にFM81.9MHzを記憶させる



選んだ番号のボタンに放送局が記憶されます。

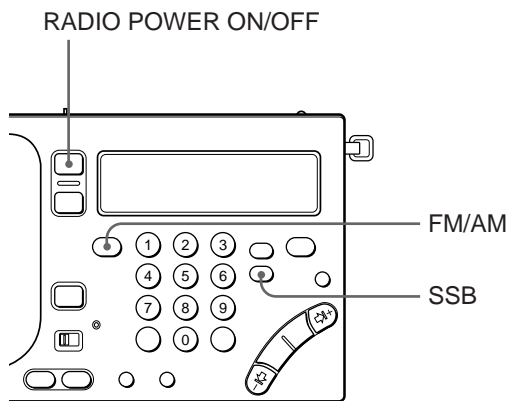
いろいろな受信のしかた(つづき)

記憶させた局を受信するには

- 1** ラジオの電源を入れる。
- 2** PAGEをくり返し押し、聞きたい局が入っているページを選ぶ。
- 3** 聞きたい局が入っている数字ボタン(0から9)を押す。
記憶させている放送局を受信されます。

SSB やCWを受信する

内蔵のBFO回路により、SSB (Single Side Band) 通信やCW (Continuous Wave) 通信を受信することができます。

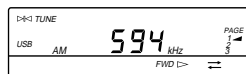


ちょっと一言

SSB、CWについて詳しくはミニ知識 44ページをご覧ください。

- 1 ラジオの電源を入れる。
- 2 FM/AMを押して、AMを選ぶ。
- 3 SSBを押して、USBまたはLSB/CWを選ぶ。

SSBを押すごとに
(通常) USB LSB/CW
の順で表示が切り換わります。



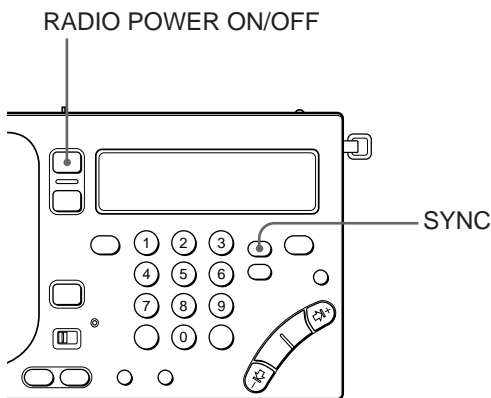
- 4 周波数を合わせて受信する。

受信のしかたは「ラジオを聞く(6ページ)」や「いろいろな受信のしかた(12~16ページ)」をご覧ください。

AM放送を良い状態で受信する

— 同期検波

同期検波回路により、AM放送 (特にSW) を明瞭に受信することができます。



ちょっと一言

同期検波について詳しくはミニ知識 44ページをご覧ください。

ご注意

メイン・ラジオ用電池が消耗していると、同期検波が解除されることがあります。

1 ラジオの電源を入れる。

2 放送を受信する。

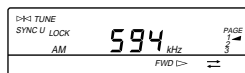
受信のしかたは「ラジオを聞く (6ページ)」や「いろいろな受信のしかた (12~16ページ)」をご覧ください。

3 SYNCをくり返し押しして、「SYNC U」または「SYNC L」のいずれか聞きやすい方を選ぶ。

SYNCを押すごとに

(通常) SYNC U SYNC L の順で表示が切り換わります。

同期検波が働いていると「LOCK」表示が点灯します。

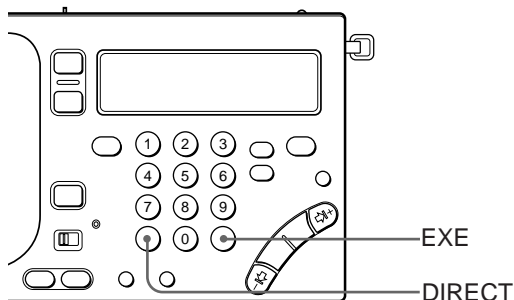


海外で使う—MW周波数ステップの切り換え

海外では、MW放送の周波数ステップが日本と異なることがあります。

- 北米、南米:10kHz
- 日本、ヨーロッパ、その他の国々 : 9kHz

必要に応じて周波数ステップを切り換えてください。



入力を間違えたときは

DIRECTを押し、もう一度手順2から操作をやり直してください。

「TRY AGAIN!」が点滅したら

間違った数字を入力しています(9または1,0以外の数字ボタンが押された)。もう一度、手順2から操作をやり直してください。

ちょっと一言

手順2～4の各操作は10秒以内に行なってください。途中で時刻表示に戻ったら、もう一度手順2から操作をやり直してください。

1 電源を切る。

2 DIRECTを押す。

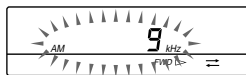


3 数字ボタンで周波数ステップを入力する。

9kHz : 9
10kHz : 1 0

4 EXEを押して決定する。

入力した周波数表示が約3秒間点滅したあと、時刻表示に戻ります。



外部アンテナを使う

付属のSW用アンテナを使うには

通常はロッドアンテナでSW放送を楽しむことができますが、鉄筋のビルの中などで受信状態が良くないときや、さらに安定した受信のためには、付属のSW用アンテナをお使いください。

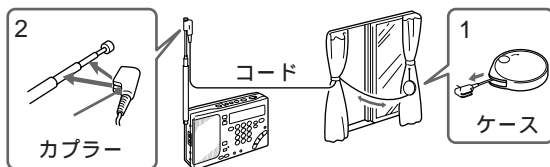
ICF-SW1000Tに付属のコンパクトアンテナ(AN-71)の場合

ご注意

コンパクトアンテナを外に出すときは、他の人の迷惑にならないように注意し、また下に落とさないようにしっかり固定してください。

使い終わったら

リールを矢印の方向に回してコードを巻き取ってください。



- 1 コードをケースから完全に引き出す。
- 2 カブラーをロッドアンテナにはめる。
- 3 窓が開く場合：危険のないことを確かめてから、コードをケースごと窓の外に出す。
窓が開かない場合：コードを窓の幅いっぱい張る。

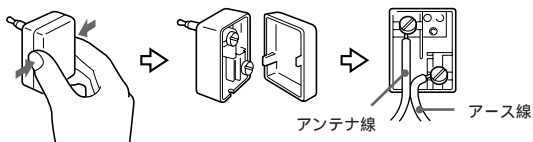
ICF-SW1000TSに付属のアクティブアンテナ(AN-LP1)の場合

AN-LP1の取扱説明書をご覧のうえお使いください。

付属のアンテナコネクタを使うには

SW(短波)用ワイヤーアンテナなどを使う場合は、付属のアンテナコネクタをお使いください。

- 1 アンテナコネクタにアンテナ線をつなぐ。



- 2 アンテナコネクタを本機のAM EXT ANT端子に差し込む。

別売りのワイドレンジアンテナを使うには

SW、MW、LW放送の受信状態を良くするためには、別売りのワイドレンジアンテナAN-1またはAN-102をお使いください。受信する放送によって、使いかたが以下のように異なります。

ご注意

- AM EXT ANT端子には推奨のアンテナ以外はつながないでください。この端子にはアンテナ用電源としてDC 3Vが出力されています。
- 室内の蛍光灯やテレビ、電話、パソコンなどが雑音の原因となることがありますので、本機やアンテナからなるべく離してお使いください。
- 外部アンテナなしでMW/LW放送を受信するときは、必ずSW用屋外アンテナを外してください。とりつけたままでは本機の内部のMW/LW用パーアンテナが働かず、受信できません。
- 外部アンテナでお使いになるときは、本機のロッドアンテナはたたんでおいてください。
- 外部アンテナはなるべく道路から離れたところに設置してください。
- 外部アンテナについて詳しくは、それぞれに付属の取扱説明書をご覧ください。

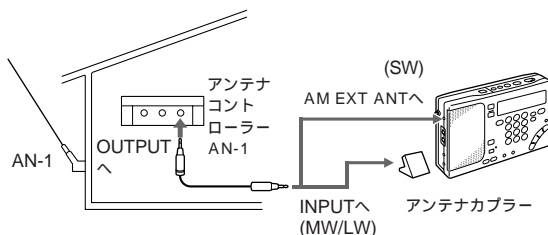
SW放送を受信するとき

接続コード(AN-1やAN-102に付属)を使って、アンテナコントローラーのOUTPUT端子と本機のAM EXT ANT端子をつないでください。

MW/LW放送を受信するとき

- 1 接続コードを使って、アンテナコントローラーのOUTPUT端子とアンテナカブラーのINPUT端子をつなぐ(両方ともAN-1やAN-102に付属)。
- 2 アンテナカブラーを本機に近く、もっとも良く受信できる場所に置く。
本機のロッドアンテナは、たたんでおいてください。

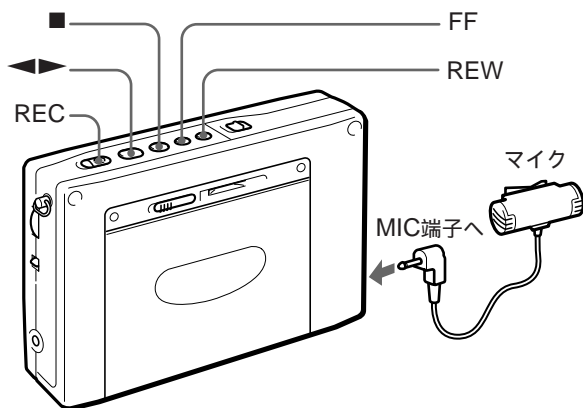
AN-1を使ったとき：



マイクで録音する

付属のマイクを使って会議などを録音できます。

録音にはTYPE I(ノーマル)テープをお使いください(CrO₂/メタルテープでは正しく録音できません)。



ご注意

- 音量を上げると、その音をマイクが拾い、ピーツという音が生じることがあります(ハウリング現象)。この場合は音量を下げるか、マイクとヘッドホンを離してください。
- 録音中、マイクを電灯線や蛍光灯などに近づけすぎると、ノイズを拾うことがあります。

ちょっと一言

マイク録音中はスピーカーから音は出ません。録音中の音を聞くときはヘッドホンをお使いください。

1 カセットを入れる。

録音を始めたい面をふた側にして入れます。

カセットのツメが折れていないことを確認してください。

2 片面録音か、両面録音かを選ぶ。

片面録音：■を押したままFFを押す「⇐」

両面録音：■を押したままREWを押す「⇐」

3 テープ走行面をふた側「FWD▷」にする。

■を押したまま◀▶を押します。

4 付属のマイクをMIC端子に差し込む。

5 録音を始める。

録音を止めるには

■を押します。

本体側の面(REV面)を録音するには

録音したい面を本体側にしてカセットを入れ、テープ走行面をREV面(「◀REV」が点灯)にします。

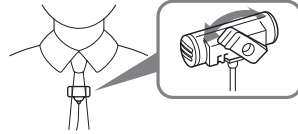
録音は、片面/両面の設定に関らず、REV面だけで終わります。

ちょっと一言

- 付属のマイクは、本機につながると電源が本機から供給されるプラグインパワー方式です。
プラグインパワー方式のマイク端子のあるカセットレコーダー以外にはご使用になれません。
- 録音中、誤操作を防ぐには、ホールド機能を働かせてください。(29ページ)

付属のマイクの使いかた

クリップはマイクをつける場所に合わせて方向を変えられます。



録音時のご注意

録音レベルについて

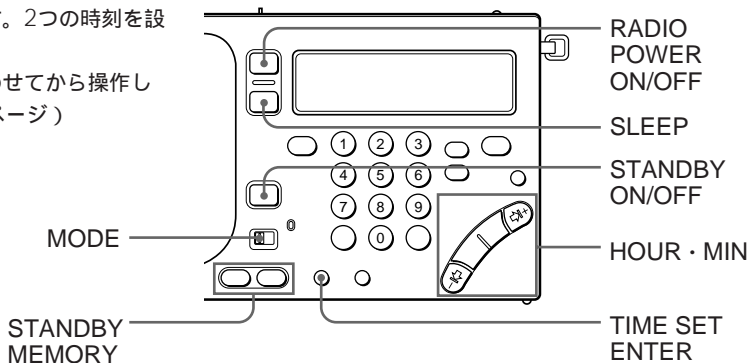
録音レベルは一定です。録音される音は、VOLUMEつまみやTONEスイッチの設定に影響されません。

録音について

- カセットを入れる前に、カセットのツメが折れていないことを確認してください。ツメが折れていると録音できません。
- RECボタンは録音開始の2秒くらい前に操作してください。直前に操作すると最初の部分が録音されません。
- 録音中は◀▶ボタンを押しても、録音する面を切り換えることはできません。

ラジオで目覚める—スタンバイ機能

ラジオ番組を目覚まし代わりにすることができます。2つの時刻を設定できます。本機の時計を合わせてから操作してください。(5ページ)

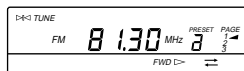


1 聞きたい放送局を受信する。

2 VOLUMEつまみで音量を調節する。

3 ENTERを押したまま
STANDBY MEMORY
の**a**または**b**を押す。

選んだボタンに放送局が記憶されます。



4 ラジオの電源を切る。

5 手順3で選んだ、STANDBY MEMORYの**a**または**b**を押したまま、HOURやMINをくり返し押してラジオをつけたい時刻を設定する。



ラジオをつけたい時刻を表示させる。

ご注意

予約時刻を設定するとき
は、必ず電源を切ってください。ラジオ受信中やテープが動作中は、時刻設定はできません。

6 STANDBY MEMORY **a**または**b**を押したまま、SLEEPをくり返し押して、ラジオの動作時間を設定する。

押すごとに、次のように切り換わります。

60(分) 50 40 30 20 10 90 80 70
 ↑ _____ ↓



動作時間を表示させる

aまたは**b**から指を離すと、現在の時刻表示に戻ります。

7 STANDBY ON/OFF をくり返し押して、手順3で選んだ「STANDBY **a**」または「STANDBY **b**」を表示させる。

押すごとに、次のように切り換わります。

STANDBY **a** STANDBY **b** STANDBY **a b** (消灯)
 ↑ _____ ↓

8 MODEスイッチをRADIOに合わせる。

予約した時刻になると、予約した放送を受信します。
 設定した動作時間が経過するとラジオが切れます。

予約を確認するには

STANDBY MEMORYの**a**または**b**を押します。押ししている間、予約されている時刻および動作時間が表示されます。

予約した時刻を変更するには

手順5から7の操作をして、あらたに時刻を予約します。

予約を解除するには

STANDBY ON/OFF を押して「STANDBY」表示を消します。

ちょっと一言

- 予約を一時解除するときはラジオの電源を切り、HOLDスイッチを矢印方向にずらし「**ON**」を表示させます。「**ON**」表示を消すと予約は復帰します。(29ページ)
- STANDBY **a b**を同時に設定できません
 一方の予約でラジオがついているときに、もう一方の予約が働いた場合、後の予約に設定した放送局の受信に切り換わります。
- 一度設定した予約は、STANDBY ON/OFFを押して解除しない限り、毎日働きます。
- 予約が働くと、ラジオやテープを聞いていたり録音をしていても、自動的に予約した放送局の受信に切り換わります。
- STANDBY **a b**に同じ時刻を設定したときは、STANDBY **a**のみが働きます。

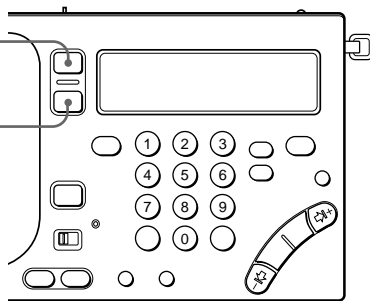
ラジオを聞きながら眠る

- スリープタイマー -

設定した時間(10 - 90分)が過ぎると自動的にラジオが消えます。

RADIO
POWER
ON/OFF

SLEEP



ちょっと一言

SLEEPを押して電源を入れると、前に聞いていた放送局が受信されます。

ご注意

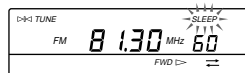
希望の動作時間を設定する前にタイマーがスタートしてしまったら、もう一度手順1からやり直してください。SLEEPボタンから指を離して約5秒たつと、自動的にタイマーがスタートします。

ちょっと一言

ラジオを録音中にスリープタイマーが働くと、録音は止まり、ラジオの電源が切れます。

1 SLEEPを押す。

ラジオの電源が入り、スリープタイマーの動作時間(60分)と「SLEEP」が点滅します。



2 SLEEPをくり返し押して、希望の動作時間を表示させる。

押すごとに、次のように切り換わります。

60(分) 50 40 30 20 10 90 80 70

「SLEEP」表示が点滅から点灯に変わり、動作時間表示が消え、スリープタイマーがスタートします。

3 聞きたい放送局を選ぶ。

設定した動作時間が経過すると、自動的に電源が切れます。

設定後に動作時間を変えるには

SLEEPボタンをくり返し押して、希望の時間を選びます。

途中でラジオを止めるには

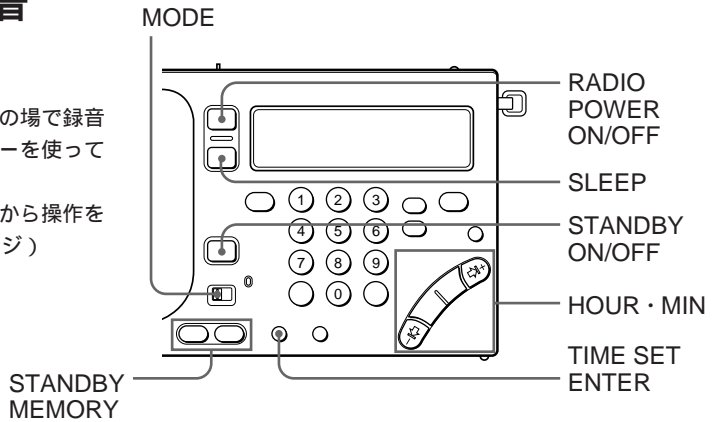
RADIO POWER ON/OFFを押します。

留守中にラジオを録音する

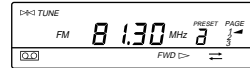
- タイマー録音

留守中や深夜など、その場で録音できないときにタイマーを使って録音できます。

本機の時計を合わせてから操作をしてください。(5ページ)



- 1 カセットを入れ、録音する面を選ぶ。
カセットのツメが折れていないことを確認してください。
- 2 録音したい放送局を受信する。
録音される音はVOLUMEつまみやTONEスイッチの設定に影響されません。
- 3 ENTER を押したままSTANDBY MEMORYの **a** または **b** を押す。
選んだボタンに放送局が記憶されます。
- 4 RADIO POWER ON/OFF を押して、ラジオの電源を切る。
- 5 手順3で選んだ、STANDBY MEMORYの **a** または **b** を押したまま、HOURやMINを押してラジオを録音し始める時刻を設定する。



ご注意

予約時刻を設定するとき
は、必ず電源を切ってください。ラジオ受信中やテープが動作中は、時刻設定はできません。



ラジオを録音する時刻を表示させる

タイマー録音(つづき)

ちょっと一言

- 予約を一時解除するときにはラジオの電源を切り、HOLDスイッチを矢印方向にずらし「**o**」を表示させます。「**o**」表示を消すと予約は復帰します。(29ページ)
- STANDBY **a** **b** を同時に設定できます
一方の予約でラジオを録音しているときに、もう一方の予約が働いた場合、後の予約に設定した放送局の録音に切り換わります。
- 一度設定した予約は、STANDBY ON/OFF を押して解除しない限り、毎日働きます。
- 予約が働くと、ラジオやテープを聞いていたり録音をしていても、自動的に予約した放送局の録音に切り換わります。
- STANDBY **a** **b** に同じ時刻を設定したときは、STANDBY **a** のみが働きます。
- カセットが入っていないかたり、カセットのツメが折れているときは、録音できず、ラジオ受信のみになります。

6 STANDBY MEMORY **a** または **b** を押したまま、SLEEP をくり返し押して、ラジオの動作時間を設定する。

押すごとに、次のように切り換わります。

60(分) 50 40 30 20 10 90 80 70
↑



動作時間を表示させる

a または **b** から指を離すと、現在の時刻表示に戻ります。

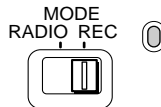
7 STANDBY ON/OFF をくり返し押して、手順3で選んだ「STANDBY **a**」または「STANDBY **b**」を表示させる。

押すごとに、次のように切り換わります。

STANDBY **a** STANDBY **b** STANDBY **a** **b** (消灯)
↑

8 MODEスイッチをRECにする。

スイッチ横に赤い表示が出ます。



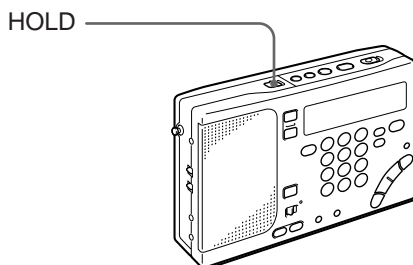
予約した時刻になると、予約した放送局を受信し録音します。

設定した動作時間が経過すると、ラジオが切れ録音も終了します。

誤操作を防ぐ—ホールド機能

ホールド機能を働かせると、ボタン操作を受け付けなくなり、持ち運ぶときなどに、あやまって電源が入ったり、ラジオやテープを聞いているときに誤操作を防ぐことができます。

また、スタンバイ機能は一時的に解除することができます。(25、28ページ)




ちょっと一言

ホールド機能を働かせると、表示窓の照明は消えます。

ご注意

キュー、レビューの状態をホールドすることはできません。


HOLDスイッチを矢印の方向にずらしします。

「」表示が点灯し、それ以降、ボタン操作を受け付けなくなります。

を点灯させる



ホールドを解除するには

HOLDスイッチを矢印と反対の方向にずらして「」表示を消します。

スタンバイとタイマー録音の設定を一時解除するには

ホールド機能を働かせると、スタンバイとタイマー録音の設定を一時解除することができます。

この機能はラジオが動作していないときのみ働きます。

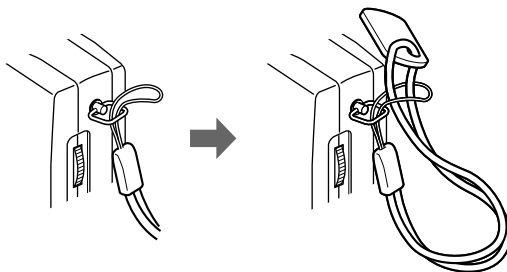
便利な
使いかた

ストラップをつける

付属のストラップを取り付けると持ち運びに便利です。また、簡易スタンドとしても使えます。

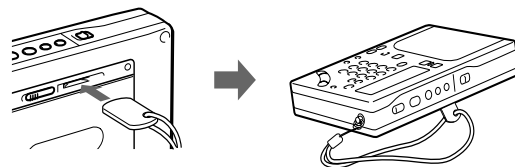
取り付けるには

本体側面のハンドストラップ取り付け金具に取り付けます。

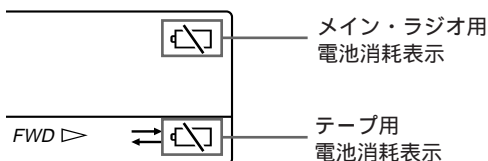


スタンドとして使うときは

ストラップについているスタンド部分を本体裏面の差し込み口に差し込みます。



乾電池を交換する



ちょっと一言

- 乾電池の交換は3分以内に行ってください。
3分以上経過すると、覚えさせた局や時刻は消えてしまいます。この場合は、もう一度設定をやり直してください。
- 乾電池の交換後、ラジオの電源を入れるかテープの操作をすると「」表示は消えます。

メイン・ラジオ用電池

メイン・ラジオ用電池が消耗してくると、ラジオやテープの動作が止まって表示窓右上にが点滅します。その場合は乾電池を2本とも新しいものと交換してください。乾電池が完全に消耗すると「」表示が点灯し、すべての操作ができなくなります。

テープ用電池

テープ用電池はテープを走行させるモーターに電源を供給しています。乾電池が消耗してくると、表示窓右下にが点滅し、テープの走行が不安定になったり、雑音が多くなったりします。その場合は乾電池を新しいものと交換してください。乾電池が完全に消耗すると「」表示が点灯し、テープの操作ができなくなります。

乾電池の持続時間

(単位：時間)

	ソニー単3形(LR6) アルカリ乾電池		ソニー単3形(R6) マンガン乾電池	
	メイン・ラジオ用	テープ用	メイン・ラジオ用	テープ用
テープ再生時	約37	約11	約14	約3.5
ラジオ FM	約27		約9	
受信時 AM	約21		約7	
マイク録音時	約36	約11	約13	約3.5
ラジオ FM	約18	約11	約6.5	約3.5
録音時 AM	約15	約11	約5	約3.5

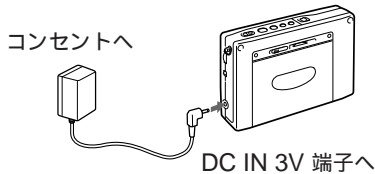
コンセントや車で使う

ちょっと一言

- DC IN 3V端子にACパワーアダプターやカーバッテリーコードをつなぐと、乾電池が入っていても自動的に外部電源に切り換わります。
- コンセントやカーバッテリーで使用中は、表示窓が常時照明されます。ただし、ホールド機能を働かせると照明は消えます。

コンセント(家庭用電源)で使うには

付属のACパワーアダプター(ICF-SW1000TS、日本国内モデルのみ)または別売りのACパワーアダプターAC-E30L(国内) AC-E30HG(海外)をDC IN 3V端子につなぎます。




ご注意

- 電源コードは、無理に曲げたり、上に重い物を載せたりしないでください。
- コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。
- 長い間使わないときは、必ずACパワーアダプターをコンセントから抜いてください。このときは必ず本体からプラグも抜いてください。

車で使うには(12V/24V車)

別売りのカーバッテリーコードDCC-E23X(国内で販売)などをDC IN 3V端子につなぎます。詳しくはカーバッテリーコードの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- 外部電源で本機を使うときも、内蔵のマイコンのバックアップ用としてRADIO BATT入れに電池を入れておいてください。この場合も乾電池は消耗しますので、約1年で交換してください。
- 乾電池で使うときは、必ずACパワーアダプターやカーバッテリーをコンセントや車から抜いたあと、本機のDC IN 3V端子からプラグを抜いてください。DC IN 3V端子に外部電源のプラグをつないだまま、本機を使わないでください。
- 外部電源のプラグを抜き差しするときは、本体の電源を切ってから行ってください。電源を入れたまま行なうと、電源が切れて「」表示が出る場合があります。この場合、もう一度本体の電源を入れる则表示は消えます。
- ACパワーアダプターやカーバッテリーコードには、ソニーの推奨品または同等品をお使いください。プラグの極性、その他の仕様の違う製品を使うと、故障したり性能を十分に発揮できないことがあります。

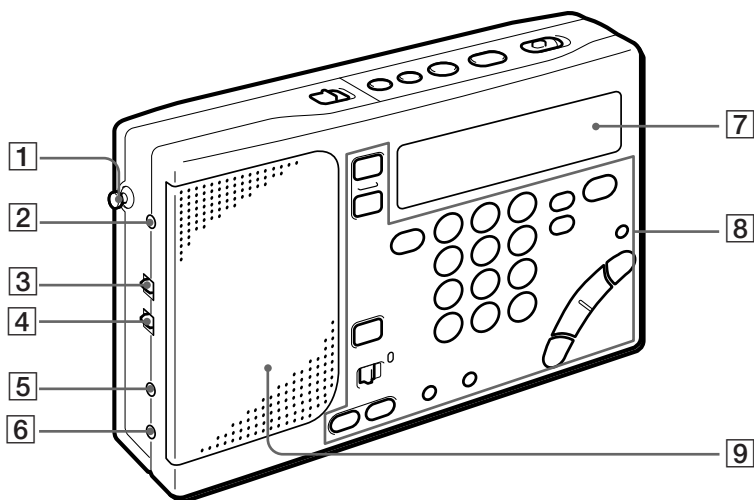


極性統一形プラグ

各部の名称

()内のページに詳しい説明があります。

前面

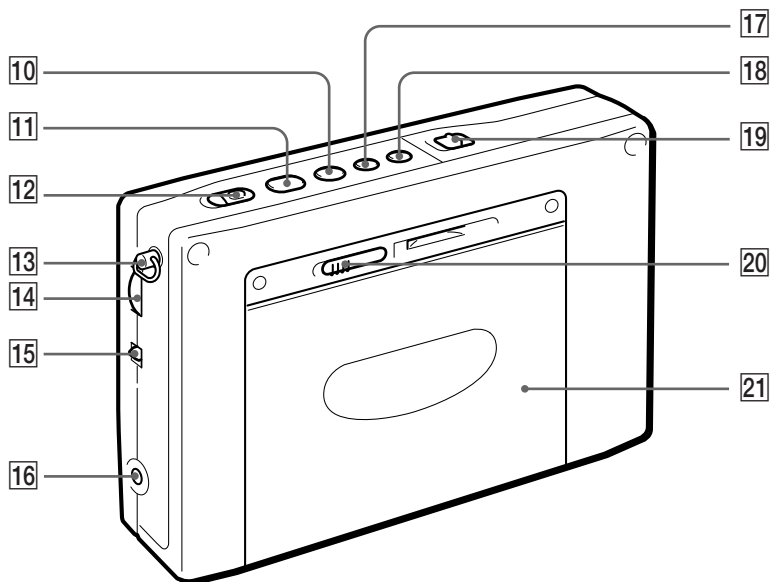


- 1 ロッドアンテナ(7)
エクスターナルアンテナ
- 2 AM EXT ANT(AM外部アンテナ入力)端子(20)
- 3 SENS DX・LOCAL(FM/AM感度切り換え)スイッチ(7)
センシティブディ ローカル
- 4 ST・MONO(ステレオ/モノラル切り換え)スイッチ(7)
ステレオ モノラル

- 5 ミック
MIC端子(22)
- 6 〇(ヘッドホン)端子
- 7 表示窓
- 8 操作部
- 9 スピーカー

その他

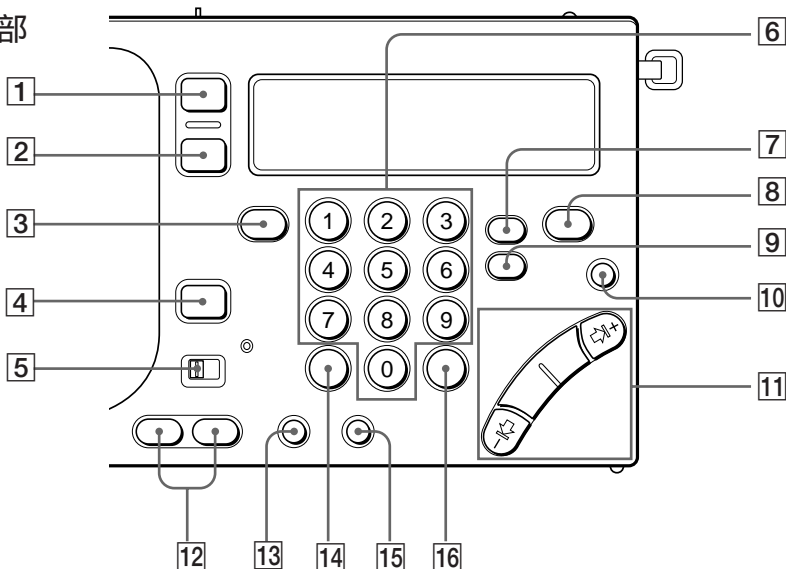
裏面



- 10 (停止)ボタン(8,9)
- 11 ◀▶ (再生)ボタン(8,9)
- 12 レコード
REC(録音)スイッチ(11)
- 13 ハンドストラップ取り付け金具(30)
- 14 ボリューム
VOLUME(音量調節)つまみ(7)
- 15 トーン
TONE(音質切り換え)スイッチ(7)
- 16 DC IN 3V ⚡⚡(外部電源入力)端子
(32)

- 17 FF(早送り)ボタン(9)
- 18 リワインド
REW(巻戻し)ボタン(9)
- 19 ホールド
HOLD(誤操作防止)スイッチ(29)
- 20 オープン
OPEN(カセットぶた開け)つまみ(8)
- 21 カセットぶた

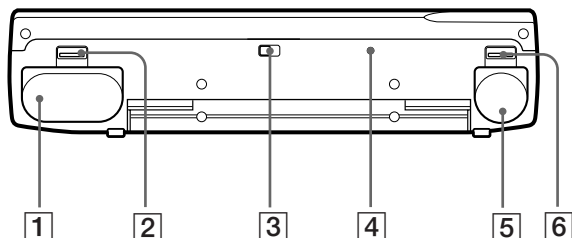
操作部



- ① RADIO POWER ON/OFF (ラジオ電源入/切) ボタン (6)
ラジオ パワー オン オフ
- ② SLEEP ボタン (26)
スリープ
- ③ FM/AM 切り換えボタン (6)
- ④ STANDBY ON/OFF (スタンバイ入/切) ボタン (24)
スタンバイ オン オフ
- ⑤ MODE (スタンバイモード ラジオ/ラジオ録音切り換え) スイッチ (25)
モード
- ⑥ MEMORY PRESET/DIRECT TUNE (プリセット選局/ダイレクト選局) ボタン (14,15)
メモリー プリセット ダイレクト チューン
- ⑦ SYNC (同期検波) ボタン (18)
シンク
- ⑧ PAGE (ページ切り換え) ボタン (15,16)
ページ
- ⑨ SSB ボタン (17)
- ⑩ LIGHT (照明) ボタン
ライト
このボタンを押すと約20秒間表示窓が照明され、暗いところでも表示が読めます。

- ⑪ MANUAL TUNE/SCAN・STANDBY TIME SET/TIME SET (マニュアル選局/スキャン選局・スタンバイ時刻設定/時計合わせ) ボタン (6)
マニュアル チューン スキャン
スタンバイ タイム セット タイム セット
- ⑫ STANDBY MEMORY・STANDBY TIME SET (スタンバイメモリー・スタンバイ時刻設定) ボタン (24,27)
スタンバイ メモリー
タイム セット
- ⑬ ENTER・TIME SET (入力/時刻設定) ボタン (5,15)
エンター タイム セット
- ⑭ DIRECT (ダイレクト選局) ボタン (14)
ダイレクト
- ⑮ AM BAND (AMバンド) 切り換えボタン (6)
バンド
- ⑯ EXE・DISPLAY (実行・表示) ボタン (5,14)
エグゼキュート ディスプレイ
ラジオやテープを聞いているときにボタンを押すと、時刻表示に切り換わり、もう一度押すと戻ります。

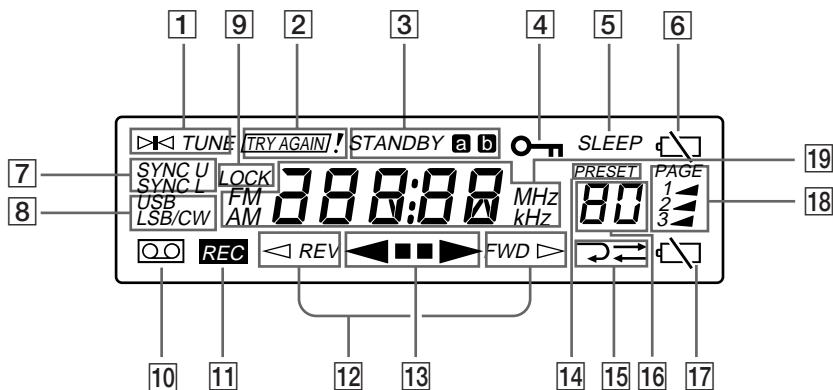
底面



- 1 ラジオ バッテリー
RADIO BATT(メイン・ラジオ用電池)
入れ(4)
- 2 オープン ラジオ バッテリー
OPEN(RADIO BATT入れ 開け)つまみ(4)
- 3 ISS(AM放送録音妨害除去)スイッチ
(11)

- 4 リセット
RESETボタン
不具合が生じたときなどに先の細いもので押すと、記憶させた周波数や時刻の内容が消え、工場出荷時の状態に戻ります。
- 5 テープ バッテリー
TAPE BATT(テープ用電池)入れ(4)
- 6 オープン テープ バッテリー
OPEN(TAPE BATT入れ 開け)つまみ(4)

表示部



- | | | |
|---|---|------------|
| <p>1 チューン
(選局)表示(14)
放送を受信したときに点灯します。</p> <p>2 トライ アゲイン
TRY AGAIN!(再設定)表示(14,19)
MW放送の周波数ステップを変えるときに間違った数字を入力したり、ダイレクト選局時に受信範囲外の周波数を入力すると、点滅します。</p> <p>3 スタンバイ
STANDBY a・b表示(25,28)
タイマーが予約されているときに点灯します。</p> <p>4 ホールド(誤操作防止)表示(29)
表示されているときはボタン操作を受け付けません。</p> <p>5 スリープ
SLEEP表示(26)
スリープタイマーが動作中に点灯します。</p> <p>6 電池消耗表示(メイン・ラジオ電池用)(31)</p> <p>7 シンク
SYNC U・SYNC L(同期検波)表示(18)</p> | <p>8 USB・LSB / CW(SSB/CW方式)表示(17)</p> <p>9 ロック
LOCK(同期ロック)表示(18)
同期検波が働いているときに点灯します。</p> <p>10 カセット表示
カセットテープが入っているときに点灯します。</p> <p>11 レコード
REC(録音)表示</p> <p>12 テープ走行方向表示(8)
カセットぶた側の面が動作するときは「FWD▷」が、本体側の面が動作するときは「◁REV」が点灯します。</p> <p>13 テープ動作表示</p> <p>14 PRESET表示</p> <p>15 テープ走行方法表示(8)</p> <p>16 プリセット番号/スリープ時間表示(15,16,26)</p> <p>17 電池消耗表示(テープ用電池)(31)</p> <p>18 ページ
PAGE(ページ番号)表示(15)</p> <p>19 周波数/時刻/テープ動作表示</p> | <p>その他</p> |
|---|---|------------|

使用上のご注意とお手入れ

置き場所について

次のような場所には置かないでください。故障の原因となることがあります。

- 暖房器具の近く、窓を開め切った自動車内(特に夏季)。
- 直射日光や紫外線が長時間当たる場所(夏季の海岸など)。
- 極端に温度が高いところ(周囲温度40℃以上)や寒いところ(0℃以下)。暑いところでは、表示が88.88...と見えることがあります。寒いところでは表示文字の変わりがたがゆっくりになります(常温に戻せば、元に戻ります)。
- 湿度の高いところ(風呂場など)。
- ほこりの多いところ。
- 強い振動や衝撃のあるところ。

本体について

- 汚れたときは、柔らかい布でからぶきしてください。シンナーやベンジンなどは表面をいためますので使わないでください。
- キャッシュカード、定期券など磁気を利用したカード類をスピーカーに近づけないでください。スピーカー内部の磁石の影響でカードの磁気が変わり、使えなくなることがありますのでご注意ください。

異常や不具合が起きたら

万一、異常や不具合が起きたとき、異物が中に入ったときは、すぐに電源を切り、(ACパワーアダプターは必ずコンセントから抜いて)内部を開けずにお買い上げ店、またはソニーサービス窓口にご相談ください。

サービス依頼について

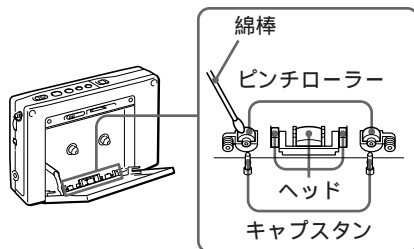
修理のために本体をお預けになると、修理内容により、プリセット局の記憶が消えてしまう場合があります。重要なデータは控えをとっておくことをおすすめします。

特定の相手方に対して行われる無線通信を傍受して、その存在または内容を漏らしたり窃用したりすることは、電波法で禁止されています。

カセットコーダーについて

ヘッド部のお手入れ

良い音でお楽しみいただくためにおよそ10時間使用すごごとに、ヘッドとキャプスタン、ピンチローラーを別売りのクリーニングキットKK-WM1などできれいにしてください。



長い間本機を使わなかったときは

使用して数分間は動作が不安定になる場合があります。





長時間テープについて

90分をこえるテープは非常に薄く伸びやすいので、こきざみな走行、停止、早送り、巻戻しなどを繰り返さないでください。テープが機械に巻き込まれる場合があります。

故障かな？と思ったら

本機の調子が悪いとすぐ故障と考えがちですが、修理に出す前にもう一度取扱説明書をお読みになり、次のような点検をしてください。

共通

悪いところは？	原因は？	直しかた
ボタン操作を受け付けない	ホールド機能が働いている	HOLDスイッチを矢印と反対の方向にずらす (「  」表示を消す)
RADIO POWER ON/OFF を押しても電源が入らない	電池の入れかたが違う 電池が消耗している ACパワーアダプターまたは カーバッテリーコードがはずれ ている	 を正しく入れ直す 新しい電池を入れる しっかり差し込む
表示窓に表示が出ない	電池の入れかたが違う	 を正しく入れる
表示窓の文字が薄く見にくい	電池が消耗している	新しい電池を入れる
表示窓の文字の変わりかたが遅い	極端に寒いところ、湿気の多い ところで使っている	適当な場所を選ぶ
音がまったく聞こえない	極端に寒いところで使っている 音量が最小になっている ヘッドホンが差し込まれている 電池の入れかたが違う	適当な場所を選ぶ 音量を調節する ヘッドホンを抜く  を正しく入れる


その
他

ラジオ


悪いところは？	原因は？	直しかた
雑音が入る、音が悪い	電池が消耗している 選局やアンテナの調節が不充分 電波が弱い	新しい電池を入れる 正しく同調する、または、アン テナを正しく使う 建物や乗り物の中などでは窓際 で聞く
	SENSスイッチがLOCALに なっている	SENSスイッチをDXに切り換 える
ダイレクト選局ができない	ボタン操作の間隔が10秒以上空 いている	それぞれのボタン操作を10秒 以内に行う
放送局を覚えさせられない	覚えさせかたが間違っている	ENTERを押したまま数字ボタン 0~9を押す(15ページ)

故障かな?と思ったら(つづき)

ラジオ

悪いところは?	原因は?	直しかた
覚えさせたはずの放送局が受信できない	覚えさせた放送局の番号が間違っている	正しい番号を選ぶ
	覚えさせた周波数が消えている(電池交換に3分以上かかった)	もう一度覚えさせる(15ページ)
予約した時刻にラジオが鳴らない	STANDBY ON/OFFボタンを押し忘れている	押す(24ページ)
	ホールド機能が働いている	HOLDスイッチを矢印と反対の方向にずらす (「  」表示を消す)
	電池交換に3分以上かかった 音量が最小になっている	タイマー予約をやり直す 音量を調節しておく

カセットコーダー

悪いところは?	原因は?	直しかた
テープの操作ができない	ホールド機能が働いている	HOLD スイッチを矢印と反対の方向にずらす(「  」表示を消す)
	メイン・ラジオ用電池が入っていない	メイン・ラジオ用電池を入れる
	テープ用電池が消耗している	新しい電池を入れる
→に設定したが両面の連続再生・録音ができない	走行方向を<REV>で再生・録音をした	FWD>で再生・録音をする
録音できない	ツメの折れたテープを使っている	ツメの穴をゼロハンテープなどでふさぐ
ラジオのタイマー録音ができない	MODEスイッチがRADIOになっている	MODE スイッチをREC に切り換える
ステレオ音源がモノラルで録音された	ST・MONOスイッチがMONOになっている	ST・MONOスイッチをSTに切り換えて録音する
音がとぎれる、汚ない	ヘッドが汚れている	ヘッドをクリーニングする (38ページ)

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間はお買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店または添付の「ソニ - ご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニ - サ - ビス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご希望により有料修理させていただきます。

ソニーワールドモデルをお買い上げのお客様へ

ワールドモデルとは

日本でも海外でも使用できるように海外、国内の電気事情（電源電圧AC 100～240V）に合わせた規格と仕様で作られたモデルです。

海外での保証とアフターサービスについて

- 保証期間は、お買い上げ日より、日本国内では1年間、海外では90日間です。
- 海外での修理やアフターサービスについてご不明な点は、保証書に記載の海外ソニーサービス特約店にお問い合わせください。

部品の保有期間について

当社ではラジオカセットコーダーの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後最低6年間保有しています。この部品保有期間を修理可能な期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、お買い上げ店またはサービス窓口にご相談ください。なお、補修用性能部品の保有期間は通商産業省の指導にもよるものです。

主な仕様

ラジオ部

回路方式	FM : スーパーヘテロダイン方式 AM : デュアルコンバージョン スーパーヘテロダイン方式
受信周波数	FM : 76 ~ 108MHz (TV : 1-3ch) SW : 1621 ~ 29999kHz MW : 530 ~ 1620kHz LW : 150 ~ 529kHz
中間周波数	FM : 10.7MHz SW/MW/LW : 55.845MHz (1st) 455kHz(2nd)

カセットコーダー部

トラック方式	コンパクトカセットステレオ
周波数範囲 (EIAJ*1)	再生時 : 20 ~ 18000Hz 録音/再生時 : 70 ~ 8000Hz

共通部

スピーカー 実用最大出力 電源	直径 約45mm、8Ω、1個 250mW(EIAJ/DC) RADIO BATT : DC 3V 単3形乾電池 2本 TAPE BATT : DC 1.5V 単3形乾電池 1本
外部電源端子 出力端子	DC IN 3V ○端子(ステレオミニジャック) 1個 16Ω
入力端子	MIC端子(ステレオミニジャック) 1個
最大外形寸法	約176×105×40mm(幅/高さ/ 奥行き)(EIAJ)
質量	本体 約464g ご使用時 約593g(単3形アルカリ乾電池、テープC-60HF、ヘッドホン、ストラップ含む)

付属品	ソニー単3形乾電池(3) ACパワーアダプター(1)*2 ステレオヘッドホン(1) イヤークッション(2) ステレオマイク(1) コンパクトアンテナ AN-71(1)*3 アクティブアンテナ AN-LP1(1)*4 アンテナコネクター(1) キャリングケース(1) ハンドストラップ(1) ウェーブハンドブック(1) ハウトゥーキャッチザウェーブ(1)*5 取扱説明書(1) 保証書(1) ソニーご相談窓口のご案内(1)*5
-----	--

*1 EIAJ(日本電子機械工業会)規格による測定値です

*2 ICF-SW1000TS 日本国内モデルのみ

*3 ICF-SW1000T のみ

*4 ICF-SW1000TS のみ

*5 日本国内モデルのみ

別売りアクセサリー

国内のみ販売

LW/MW/SWワイドレンジアンテナ	AN-1
	AN-102
ACパワーアダプター	AC-E30L
カーバッテリーコード	DCC-E230
クリーニングキット	KK-WM1

国内、海外で販売

ACパワーアダプター	AC-E30HG
------------	----------

国によって扱っているアクセサリーが違います。詳しくはお買い上げ店、サービス窓口、海外ソニーサービス特約店にご相談ください。

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

三二知識

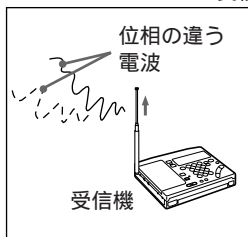
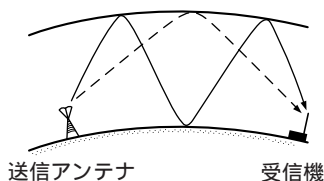
上空を埋めつくす世界の電波。この電波の種類や特長をよくつかんだうえ、ラジオ放送受信をお楽しみください。

付属のウェーブバンドブックは、そのためのわかりやすいガイドブックとなるはずです。よく読んで、ラジオと一緒に保管してください。

以下はよく使われる用語の説明です。

フェージング

短波放送などを聞いていると、音が大きくなったりすることがありますが、これはラジオの故障ではなく、フェージングと呼ばれる現象です。フェージングは、電離層の変化で反射される電波の強さが変わったり、いろいろな経路を通して伝わってきた電波が互いに干渉し合ったりして起こるものです。たとえば、電離層で1回反射された電波と2回反射された電波とが同時にラジオに入ってくると、2つの電波の位相(波形の位相)がずれていることがあり、それらが干渉し合って電波の強いところと弱いところができ、音が大きくなったり小さくなったりするわけです。



受信した放送局の判別のしかた

選局すると、次から次へと多くの放送が聞こえてきますが、その中のどれが自分の聞きたい局か、今受信しているのはどの放送か、というのはなかなかわかりにくいものです。このようなときは次のことに注意してみてください。

- 受信周波数 ...表示周波数を放送局の周波数一覧表示などで調べます。
- 放送中のアナウンス ...ふつう15~30分おきに局名やコールサインをアナウンスしています。
- インターバルシグナル...たいいていの放送局では番組の初めや終わりに特有の音楽や動物の鳴き声を放送します。これらを覚えておくと次からはその判別が容易です。

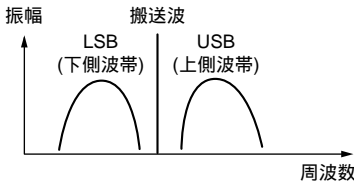
放送時間や番組内容について詳しく知りたいかたは、希望の放送局に申し込むとプログラムやパンフレットを送ってくれます。

その
他

シングル サイド バンド SSB (Single Side Band) とは

普通の放送では音声などの信号は、下図のように上側波帯と下側波帯という2つの周波数成分を用いて送られています。これらのうちどちらか一方をもちいるのがSSB方式で、搬送波より高いものをUSB(上側波帯)、低いものをLSB(下側波帯)と言います。両方を用いるDSB(ダブル サイド バンド(Double Side Band))に比べて混信が少なく、業務用通信やアマチュア無線で広く利用されています。

SSB方式では一般には、USBが採用されていますが、10MHz以下のアマチュアバンドでは、LSBが使われることが多くなっています。SSB波は普通のラジオで受信してもモガモガという音が聞こえるだけで、音声としては聞けません。SSB波を正常な音声に戻すためには、本機に内蔵されているようなBFO(ビート フリクエンシィ オシレーター(Beat Frequency Oscillator))という特殊な回路が必要です。



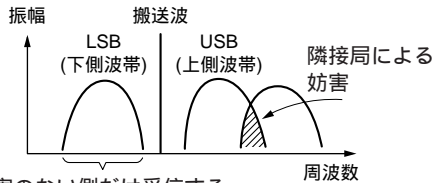
コンティニューアス ウェーブ CW (Continuous Wave) とは

普通の放送は搬送波を音声信号で変調して行いますが、CWでは変調しない、搬送波の断続によって信号を送るもので、一般にモールス信号で通信が行われます。この通信もBFO回路を通すことによりビート音の断続として受信できるようになりますが、通信内容を判断するためにはモールス符号を理解する必要があります。CW通信も各種業務用やアマチュア無線に用いられています。

同期検波とは

短波放送の受信を困難にしている大きな原因は、フェージング(43ページ)によるひずみと隣接局によるビート妨害です。この2つの障害の改善に大きな効果を発揮するのが同期検波方式です。フェージングによるひずみは、途中経路でさまざまな電波の干渉によって搬送波が弱められた結果、過変調となって発生するものです。本機では、まず受信した電波から搬送波のみを取り出し、その後、同期検波回路によって、この搬送波と周波数はもちろん、位相まで同期したレベル変動のない純粋な周波数を作り出して、この周波数を搬送波として受信信号に補っています。これにより、ひずみが軽減されます。

また、AM(短波、中波、長波)放送では、普通、搬送波の上下の周波数帯(USBとLSB)を使って変調信号を送るDSB(Double Side Band)方式が用いられていますが、隣接局による妨害はUSBかLSBのどちらか一方のみが影響を受けている場合が多いのです。本機の同期検波回路では、DSB方式のUSBかLSBのどちらか一方のみを抽出できますので、妨害を受けていない方を探して受信することにより、妨害のない明瞭な受信を楽しむことができます。



Before operating the unit, please read this manual thoroughly and retain it for future reference.

Warning

To prevent fire or shock hazard, do not expose the unit to rain or moisture.

To avoid electrical shock, do not open the cabinet.

Refer servicing to qualified personnel only.

Features

Radio

- **FM stereo/SW/MW/LW reception for worldwide band coverage**
Quartz controlled PLL (Phase Locked Loop) synthesizer system enables simple and precise tuning
FM: 76–108 MHz
87.5–108 MHz (for the Saudi Arabian model)
SW: 1621–29999 kHz
1621–26100 kHz (for the Saudi Arabian model)
MW: 530–1620 kHz
LW: 150–529 kHz
150–285 kHz (for the Saudi Arabian model)

Refer to the supplied “Wave Handbook” for more information on worldwide band coverage (not applicable for the Saudi Arabian model).

Refer to the supplied “Shortwave Guide” for more information on shortwave band coverage (for the Saudi Arabian model only).

- **Four flexible tuning methods to obtain optimum reception under any condition**
 - **Manual tuning** for precise control and hand-operated tuning of the desired broadcast station.
 - **Scan tuning** for rapid automatic search of the desired broadcast station through scanning.
 - **Direct tuning** for immediate selection of the desired broadcast station when the frequency is known.
 - **Preset tuning** for instant recall of a preset broadcast station with a single press of the button.

- **Built-in timer operation** with the timer standby function which turns on the radio automatically at a preset time, plus the **sleep timer function** which turns off the radio automatically after a specified number of minutes
- **Stereo playback and FM reception with the supplied stereo headphones**

Cassette-Corder

- **Auto-reverse recording and playback cassette-corder**
 - Instant recording operation of the desired broadcast station with a single press of the button, or simply enjoy recording with the external microphone.
 - Record radio broadcasts at the desired preset time with the convenient built-in timer.
- **Monitor the sound while forwarding or rewinding with the cue and review functions**

MW channel step

The MW channel step of this unit is factory-set to 9 kHz.

Change the MW channel step from 9 kHz to 10 kHz when listening to MW broadcasts in North and South American countries (see page 19).

North and South American countries: 10 kHz

Japan, Europe, and other countries: 9 kHz

Notes on recording

- Check and make sure that the recording operation is not malfunctioning prior to recording important materials.
- **IN NO EVENT SHALL SELLER BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OF ANY NATURE, OR LOSSES OR EXPENSES RESULTING FROM ANY DEFECTIVE PRODUCT OR THE USE OF ANY PRODUCT.**
- Observe the relevant regulations on copyright relating to your collection of recordings from the radio. Unauthorized public performance, broadcasting and duplication of a recorded broadcast for commercial purposes are a violation of applicable laws.

Table of contents

Basic Operations

- 4 Inserting the batteries
 - 5 Setting the clock
 - 6 Listening to the radio—Scan tuning
 - 8 Playing a cassette
 - 10 Recording radio broadcasts
-

Radio

- 12 Various tuning methods for optimum reception
- 12 Manual tuning
- 14 Direct tuning
- 15 Preset tuning
- 17 Receiving SSB and CW transmissions
- 18 Receiving optimum AM broadcast—Synchronous detection
- 19 Changing the MW channel step for use in foreign countries
- 20 Connecting an external antenna for optimum reception

Cassette

- 22 Recording with a microphone

Timer

- 24 To wake up to the desired broadcast—Standby function
- 26 To fall asleep while listening to the desired broadcast—Sleep timer
- 27 To record the desired broadcast with the timer—Timer recording

Other Operations

- 29 Using the hold function to prevent accidental operation
- 30 Attaching the strap

Power Sources

- 31 Replacing the batteries
- 32 Operating with house current or car battery

Additional Information

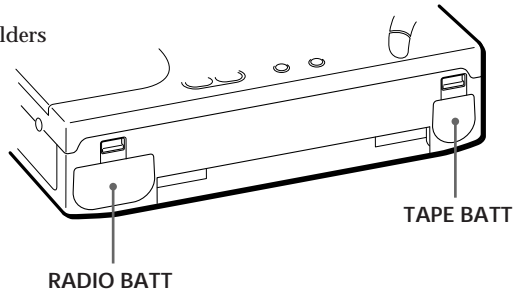
- 33 Location and function of controls
- 38 Precautions and Maintenance
- 40 Troubleshooting
- 43 Specifications
- 44 Tips on radio waves

EN

Inserting the batteries

Insert the batteries to operate the unit with batteries.

Insert the batteries into both battery holders when using the cassette.



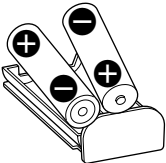
To operate the unit with house current or car battery, refer to “Operating with house current or car battery” on page 32.

1

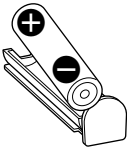


Push the OPEN tabs and remove the RADIO BATT and TAPE BATT battery holders.

2



Insert with the correct \oplus \ominus polarity as indicated.



Insert two R6 (size AA) batteries into the RADIO BATT battery holder and insert one R6 (size AA) battery into the TAPE BATT battery holder.

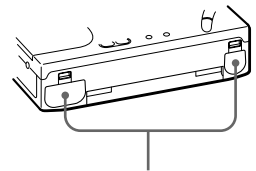
Note

It is not necessary to insert a battery into the TAPE BATT battery holder if you wish to operate the radio only. However, to use the cassette, insert the batteries into both the RADIO BATT and TAPE BATT battery holders.

Otherwise, the unit may not operate properly.

3

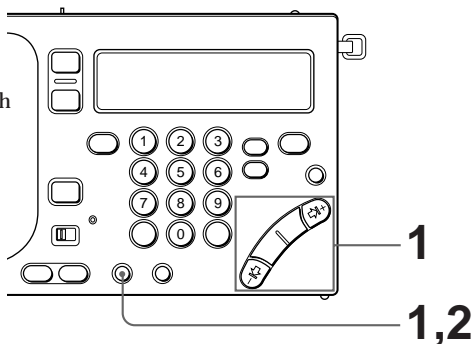
Insert both battery holders back into the unit.



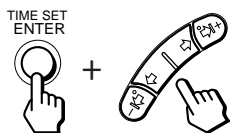
Insert until it clicks.

Setting the clock

Set the clock when you initially insert the batteries or when the clock is reset at which time "0:00" flashes.



1



Press and hold **TIME SET • ENTER** while pressing **HOUR** or **MIN** repeatedly until the correct time is displayed.

Each time **MIN** (← or →) is pressed, the minute will decrease (←) or increase (→) by one minute. Each time **HOUR** (-|← or ⇒|+) is pressed, the hour will decrease (-|←) or increase (⇒|+) by one hour. Press and hold the button to decrease or increase rapidly.

2

Release **TIME SET • ENTER**.

The ":" starts flashing and the clock operates.



Tips

- The clock is displayed in 24-hour indication.
- Press **TIME SET • ENTER** to stop the flashing of "0:00".
- To set the clock accurately, release **TIME SET • ENTER** at the time of the tone.

To display the clock

Press **EXE** to display the clock while operating the radio or the cassette. The current time appears for about 10 seconds and then the previous display returns. However, the clock cannot be displayed while scan tuning.

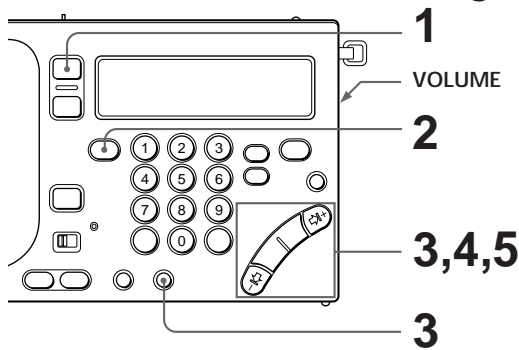
While the clock is displayed, press **EXE** again to return to the previous display.

Note

You cannot set the clock while operating the radio or the cassette.

Press **RADIO POWER ON/OFF** to turn off the radio, or press ■ to stop the tape.


Listening to the radio—Scan tuning

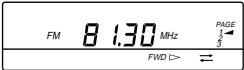



To manually tune in to the desired broadcast station, refer to “Manual tuning” on page 12.

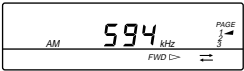
To immediately tune in to the desired broadcast station, refer to “Direct tuning” on page 14.


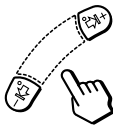
To preset a broadcast station for instant recall, refer to “Preset tuning” on page 15.

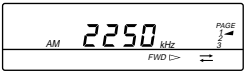
1  Press **RADIO POWER ON/OFF**.
The radio turns on.



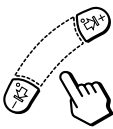
2  Press **FM/AM** to select either FM or AM.
Select AM to listen to SW, MW or LW.



3  **AM BAND** +  When you select AM, press **I<-** or **I+>** while pressing **AM BAND** to select MW, LW, or meter band (SW)*.
Skip this step and proceed to step 4 if you wish to listen to FM.
* For details on the meter band, refer to “Meter bands and SW” on page 13.

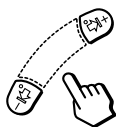


The minimum frequency allocation for each band is displayed.

4  Press and hold **I<-** or **I+>** and release when scanning of the frequency begins.
When a broadcast station is received automatically, scanning pauses for about 2 seconds. Then, scanning resumes to tune in to the next broadcast station.
Scanning repeats in a cycle within the meter band frequency range (see page 13). Scanning during SSB reception repeats in a cycle within the 150-29999 kHz frequency range.*

* Not applicable for the Saudi Arabian model.

5



Press \leftarrow or \rightarrow to stop scanning and to listen to the currently tuned broadcast station.



Tips

- To enjoy FM stereo reception, plug the stereo headphones. Set ST • MONO to ST or MONO to select stereo or monaural reception as necessary.
- When listening to news, set TONE to NEWS for optimum results. Vocal output will be sharper and clearer. When listening to music, set to MUSIC for optimum results.
- During MW reception at nighttime when radio wave intensity is dramatically stronger, or when interference is prevalent, scanning may tend to tune in to almost every null broadcast. Set SENS to LOCAL so that the null broadcast of weaker radio wave intensity is skipped. Under normal conditions, set to DX.

Note

When reception does not improve, connect an external antenna (see page 20).

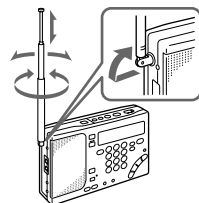
Other operations

To	Press or turn
Fine tune the reception	\leftarrow , \rightarrow , \leftrightarrow , \leftrightarrow
Adjust the volume	VOLUME
Turn off the radio	RADIO POWER ON/OFF

To improve reception

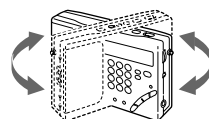
For FM reception

Gently pull out the telescopic antenna and adjust the length, angle and direction to obtain optimum reception.



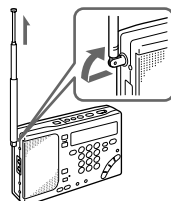
For MW/LW reception

Retract the telescopic antenna and rotate the unit to reorient the built-in ferrite bar antenna to obtain optimum reception.

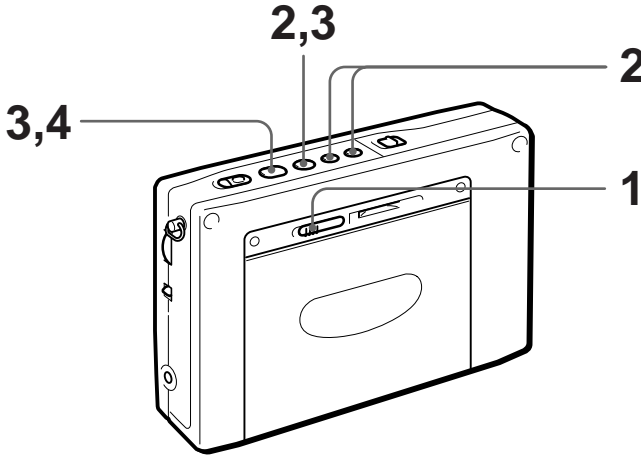


For SW reception

Gently pull out the telescopic antenna to its full length and set vertically to obtain optimum reception.



Playing a cassette

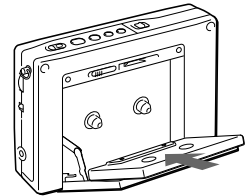


1

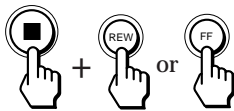


Slide OPEN and insert a cassette.

Remove the slack of the tape and insert the cassette with the exposed side facing down.



2



Select whether you wish to play one side or both sides of the cassette.

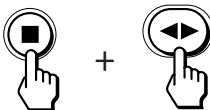
To play one side: Press FF while pressing ■.

To play both sides: Press REW while pressing ■.



⇌ : one side
 ⇄ : both sides

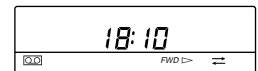
3



Press ◀▶ while pressing ■ to select the side you wish to play.

To play the side facing the cassette holder (forward side): Display "FWD ▶".

To play the side facing the unit (reverse side): Display "◀ REV".



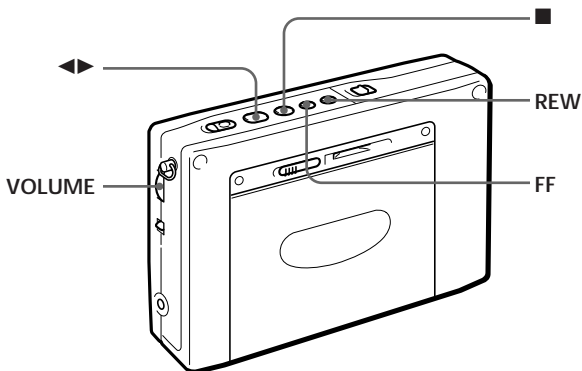
4



Press ◀▶.



Other operations



Tips

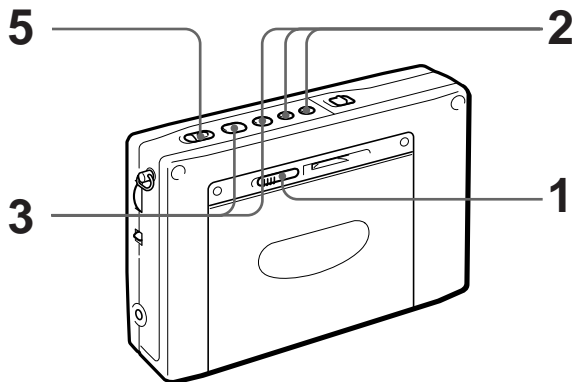
- To enjoy stereo-recorded cassettes, plug the stereo headphones. Set ST • MONO to ST or MONO to select stereo or monaural as necessary.
- The ATS (Auto Tape Selector) function automatically determines and selects the type of cassette you wish to use for playback only: Normal or CrO₂/Metal cassette.

Note

The reverse side only is played when playback begins from the reverse side of the cassette.

To	Press or turn
Adjust the volume	VOLUME
Switch the playback side	◀▶ during playback
Stop playback, FF, REW, and REC	■
Fast forward	FF during stop
Rewind	REW during stop
Fast forward while monitoring the sound (cue)	FF during playback
Rewind while monitoring the sound (review)	REW during playback

Recording radio broadcasts



To record with a microphone, refer to “Recording with a microphone” on page 22.

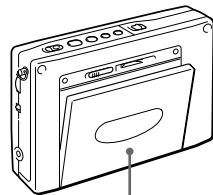
1

Slide OPEN and insert a cassette.



Note

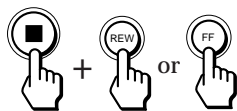
Before inserting a cassette, make sure that the cassette tab is not broken off. A cassette with a broken tab cannot be recorded.



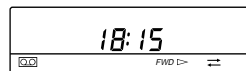
Insert the cassette with the side you wish to record facing the cassette holder.

2

Select whether you wish to record one side or both sides of the cassette.



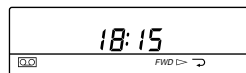
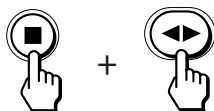
To record one side: Press FF while pressing ■.
To record both sides: Press REW while pressing ■.



↔: Records one side.
↔↔: Records both sides.

3

Press ◀▶ while pressing ■ to display “FWD ▶”.

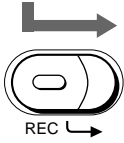


4

Tune in to the desired broadcast station you wish to record.

Refer to pages 6 and 12-16.

5



Press the red button in the center and slide REC.



After a few seconds, the frequency is displayed.

Tips

- Adjusting VOLUME and TONE does not affect the sound to be recorded.
- Speaker output is monaural when recording. To enjoy FM stereo reception, plug the stereo headphones.
- Recording stops automatically when RADIO POWER ON/OFF is pressed to turn off the radio.

Notes

- Use Type I (normal) cassettes only for recording. Playback may be distorted or a previously recorded segment may not be erased completely when a CrO₂ or metal cassette is used.
- Recording with weak batteries generates unnecessary noise and produces unsatisfactory recordings. In this case, replace the batteries with new ones.
- Operate REC approximately 2 seconds prior to the point you wish to begin recording. If not, the leading segment may not be recorded.
- Switching the recording side is not possible when ◀▶ is pressed during recording.
- The buttons for the radio are operational while recording. To prevent accidental operations, use the hold function (see page 29).

To stop recording

Press ■.

To record the side facing the unit (reverse side)

Insert the cassette with the side you wish to record facing the unit (reverse side). Press ◀▶ while pressing ■ to display “◀ REV”.

Recording stops on the side facing the unit regardless of whether one side or both sides is selected.

To record an FM stereo broadcast

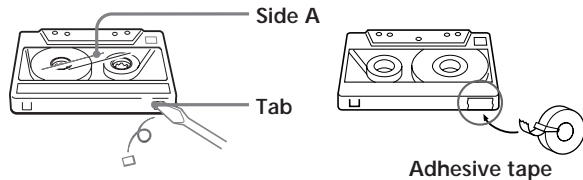
Set ST • MONO to ST or MONO to select stereo or monaural recording as necessary.

To improve AM reception for recording

When recording an AM broadcast, the reception may contain noise interferences that were not present prior to recording. In this case, set ISS on the bottom of the unit to the position (1, 2 or 3) in which noise interferences are minimal to obtain optimum reception for recording.

To protect your important recorded cassettes

Break off the cassette tab of side A or B to prevent accidental recording of your important cassettes. If you wish to use the cassette for recording again, cover the opening of the broken tab with adhesive tape.

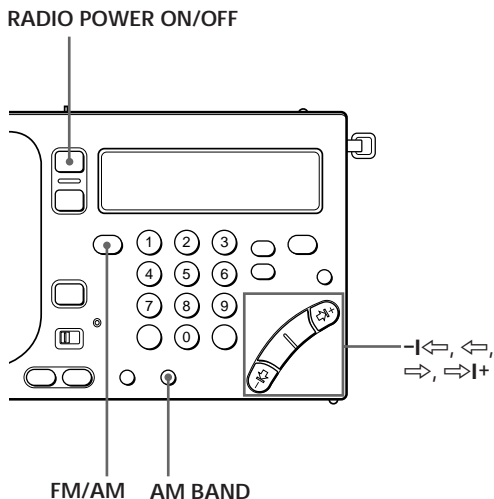


“◻◻” flashes when recording is attempted on a cassette with a broken tab. A cassette with a broken tab cannot be recorded.

Various tuning methods for optimum reception

Manual tuning

Use \leftarrow , \rightarrow , \Rightarrow , and \Rightarrow I+ search for the desired broadcast station. Use the outer buttons to search rapidly in large frequency increments. Use the inner buttons to search precisely in small frequency increments.



Tips

- The previously tuned broadcast station is received when you turn on the radio.
- When \leftarrow or \rightarrow is pressed repeatedly in the AM band (MW, SW, and LW), the frequency repeats through the range of 150–29,999 kHz to enable search of all available broadcast stations (not applicable for the Saudi Arabian model^{*1}).

^{*1} For the Saudi Arabian model, when \leftarrow or \rightarrow is pressed repeatedly in the AM band (MW, SW, and LW), the frequency repeats through the ranges of 150–285 kHz and 530–26,100 kHz.

- Turn on the radio.
- Select either FM or AM.
Select AM to listen to SW, MW or LW.
- When you select AM, press \leftarrow or \Rightarrow I+ while pressing AM BAND to select MW, LW or meter band (SW).
Skip this step and proceed to step 4 if you wish to listen to FM.
- Press \leftarrow , \rightarrow , \Rightarrow , and \Rightarrow I+ repeatedly to search for the desired broadcast station.
Each time the buttons are pressed, the channel step changes as shown below.

Band	\leftarrow or \Rightarrow I+	\leftarrow or \rightarrow
FM	0.05 MHz	0.05 MHz
SW	5 kHz	1 kHz
MW	9/10 kHz	1 kHz
LW	9 kHz	1 kHz
SSB (AM) ^{*2}	1 kHz	0.1 kHz ^{*3}

^{*2} Not applicable for the Saudi Arabian model.

^{*3} Units of 0.1 kHz is not indicated in the display.

Note

The SW frequency range and meter band may differ from the actual value. Refer to the supplied "Wave Handbook" for more information on worldwide band coverage (not applicable for the Saudi Arabian model). Refer to the supplied "Shortwave Guide" for more information on shortwave band coverage (for the Saudi Arabian model only).

Meter bands and SW

SW is divided into 14 bands that are generally referred to as meter bands. The frequency range that is applicable for automatic scanning is shown below.

(kHz for AM, MHz for FM)

Band	Frequency Range	Scan Frequency Range	Meter band	
AM	LW	150–529	153–522	
		150–285 * ¹	153–279 * ¹	
	MW	530–1620	530–1620 * ²	—
			531–1620 * ³	—
	SW	1621–29999 1621–26100 * ¹	2250–2550	120 meter band
			3150–3450	90 meter band
			3850–4050	75 meter band
			4700–5100	60 meter band
			5900–6250	49 meter band
			7100–7400	41 meter band
			9400–10000	31 meter band
			11500–12150	25 meter band
			13500–13900	22 meter band
			15000–15700	19 meter band
17450–18000			16 meter band	
18850–19100			15 meter band	
21450–21950	13 meter band			
25600–26100	11 meter band			
FM	76.00–108.00	76.00–108.00	—	
	87.50–108.00 * ¹	87.50–108.00 * ¹		

*¹ For the Saudi Arabian model only.

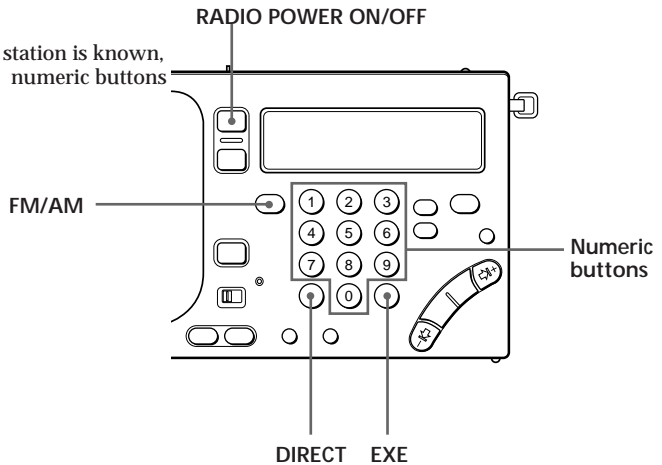
*² When the channel step is 10 kHz (see page 19).

*³ When the channel step is 9 kHz (see page 19).

Various tuning methods for optimum reception (continued)

Direct tuning

When the desired broadcast station is known, enter the frequency with the numeric buttons for immediate selection.



Tips

- When you have entered the wrong frequency in step 4, press DIRECT to cancel the current entry and enter the correct frequency.
- “TRY AGAIN!” flashes when the frequency entered is invalid and beyond the allocated frequency range for reception. Check and make sure that the frequency is valid and repeat from step 3 again.
- The minimum digit entry is 0.05 MHz (50 kHz) for the FM band, and 1 kHz for the AM band.

Note

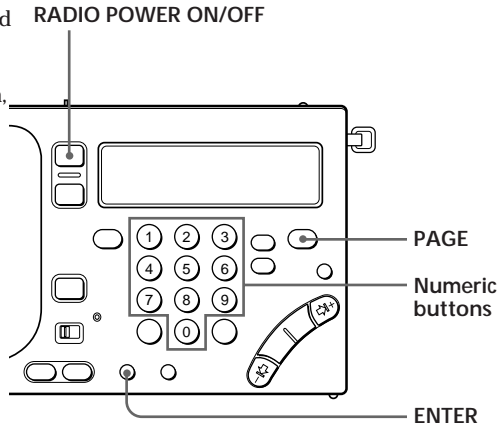
Complete each button operation in steps 3 to 5 within 10 seconds. If the previously tuned frequency appears in the display, repeat from step 3 again.

- 1** Turn on the radio.
- 2** Select either FM or AM.
Select AM to listen to SW, MW or LW.
- 3** Press DIRECT.
The frequency in the display disappears.
- 4** Enter the frequency of the desired broadcast station by pressing the numeric buttons.
FM band: A decimal point is not required for entry.
For example, to enter 84.7 MHz, press 8, 4 and 7.
AM band: The lower triple zero digits are omitted for entry.
For example, to enter 10,000 kHz, press 1 and 0.
- 5** Press EXE.
When the desired broadcast station is received, “▷◀ TUNE ” appears in the display.

Preset tuning

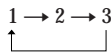
Your favorite broadcast stations can be stored on a total of 3 pages. Each page can store up to 10 broadcast stations.

Before tuning in to a preset broadcast station, you must complete the procedure below to preset your favorite broadcast stations.



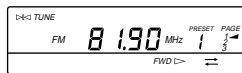
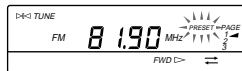
- 1 Turn on the radio.
- 2 Tune in to the desired broadcast station you wish to preset.
- 3 Press PAGE repeatedly to select the page you wish to store your favorite broadcast station on.

Each time you press PAGE, the display changes in the following order:



- 4 Press a numeric button (0-9) while pressing ENTER.

When FM 81.9 MHz is assigned to preset number 1 of page 1.



The broadcast station is assigned to the selected number.

Tip

To change and modify the preset broadcast station, store the new broadcast station to the selected preset number. The previous preset broadcast station is overwritten by the new preset broadcast station.

Various tuning methods for optimum reception (continued)

Tuning in to a preset broadcast station

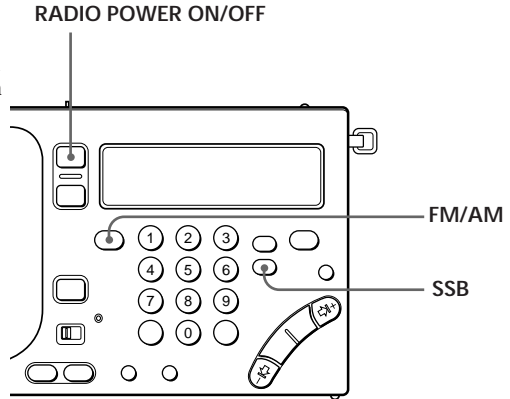
- 1** Turn on the radio.
- 2** Press PAGE repeatedly to select the page which contains the desired preset broadcast station you wish to tune in to.
- 3** Press the numeric button (0-9) to which the desired broadcast station you wish to tune in to is assigned.

The desired preset broadcast station is received.

Receiving SSB and CW Transmissions

(not applicable for the Saudi Arabian model)

You can receive SSB (Single Side Band) and CW (Continuous Wave) transmissions with the built-in BFO circuit.



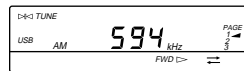
Tip

For more details on SSB and CW, refer to “Tips on radio waves” on page 44.

- 1 Turn on the radio.
- 2 Press FM/AM to select AM.
- 3 Press SSB to select USB or LSB/CW.

Each time SSB is pressed, the display changes in the following order:

(Normal mode) → USB → LSB/CW.



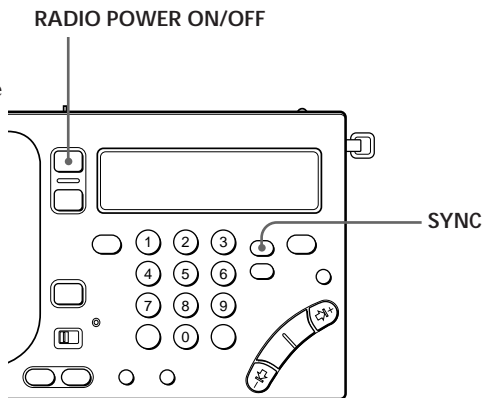
- 4 Tune in to the desired broadcast station.

Refer to pages 6 and 12-16.

Receiving optimum AM broadcast

—Synchronous detection

You can receive AM broadcast (especially SW broadcast) under optimum condition with the synchronous detection circuit.



(not applicable for the Saudi Arabian model)

Tip

For more details on synchronous detection, refer to “Tips on radio waves” on page 44.

Notes

- If neither SYNC U nor SYNC L improves AM reception, or if the reception deteriorates even further, press SYNC again (SYNC U or SYNC L for the Saudi Arabian model) to cancel the synchronous detection mode. “LOCK” in the display disappears.
- The synchronous detection may be cancelled when the Main/radio batteries become weak.

- 1 Turn on the radio.
- 2 Tune in to the desired broadcast station.
Refer to pages 6 and 12–16.
- 3 Press SYNC to select SYNC U or SYNC L to obtain optimum AM reception.

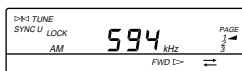
(not applicable for the Saudi Arabian model)

Each time SYNC is pressed, the display changes in the following order:

(Normal mode) → SYNC U → SYNC L.



“LOCK” appears in the display when the synchronous detection mode is operating.



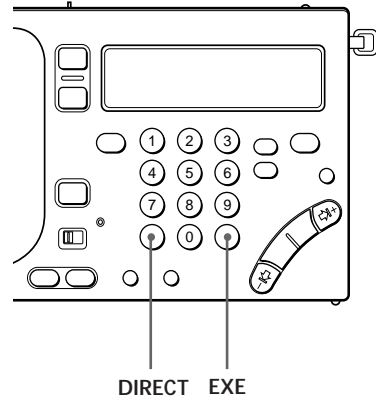
For the Saudi Arabian model, press SYNC U or SYNC L to obtain optimum AM reception.

Changing the MW channel step for use in foreign countries

The MW channel step of this unit is factory-set to 9 kHz. The channel step differs depending on the area to match the frequency allocation system of the country. Change the MW channel step as necessary.

North and South American countries:
10 kHz

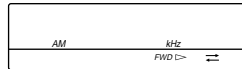
Japan, Europe, and other countries:
9 kHz



Notes

- When you have entered the wrong MW channel step in step 3, press DIRECT to cancel the current entry and enter the correct value.
- “TRY AGAIN!” flashes when the MW channel step entered is invalid (i.e., not 9 or 1 and 0). Repeat from step 2 again.
- Complete each button operation in steps 2 to 4 within 10 seconds. If the clock display returns, repeat from step 2 again.

- 1 Turn off the radio.
- 2 Press DIRECT.



- 3 Press the numeric buttons (1, 9 and 0) to enter the desired MW channel step (9 or 1 and 0).
- 4 Press EXE.



The MW channel step flashes for about 3 seconds and then the clock display returns.

Connecting an external antenna for optimum reception

Tips

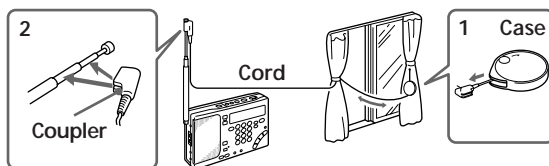
- When extending the cord and case of the supplied SW compact antenna outside the window, make sure that doing so will not pose any threat or danger to you and others. In addition, make sure to secure firmly so as not to drop the SW compact antenna.
- After using the SW compact antenna, turn the reel in the direction of the arrow to wind up the cord.



Using the supplied SW antenna

Under normal conditions, the telescopic antenna is sufficient for optimal SW reception. However, the use of the supplied SW antenna is recommended if the reception is poor when listening to the radio inside a building due to concrete and metal obstructions.

For the compact antenna (AN-71) supplied with ICF-SW1000T



- 1 Fully pull out the cord from the case.
- 2 Attach the coupler to the telescopic antenna.
- 3 If the window can be opened, gently extend the cord with the case outside the window after making sure that doing so will not pose any danger.

If the window cannot be opened, fully extend the cord along the frame of the window.

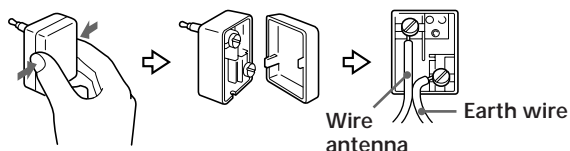
For the active antenna (AN-LP1) supplied with ICF-SW1000TS

Before operating the unit, please read the instructions manual for AN-LP1.

Using the antenna connector (supplied for the World model only)

Use the supplied antenna connector when using an SW wire antenna, etc.

- 1 Connect the wire antenna wire to the supplied antenna connector.



- 2 Connect the antenna connector to the AM EXT ANT jack of the unit.

Notes

- Connect the recommended antennas only to the AM EXT ANT jack of the unit. The AM EXT ANT jack supplies a 3 V DC power output to the recommended antennas. Failure to use the recommended antennas where applicable may lead to the malfunction of the unit.
- Keep the unit and antenna away from fluorescent lights, televisions, and computers which may generate noise.
- When receiving MW or LW broadcasts without using the external MW/LW antenna, make sure to disconnect the SW external antenna where applicable. If not, the built-in ferrite bar antenna will not operate and MW/LW broadcast will not be received successfully.
- Retract the telescopic antenna when using an external antenna.
- Set up the external antenna as far away from the street as possible.
- For more details on the external antenna, refer to its Operating Instructions manual.

Using the wide range antenna (not supplied)

Use the wide range antenna AN-1 or AN-102 (not supplied) to improve SW, MW and LW receptions as necessary. Wide range antenna usage will differ for SW and MW/LW receptions as described below.

For SW reception

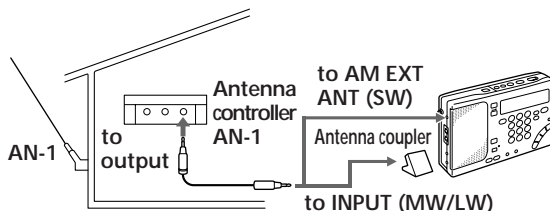
Use the connection cord supplied with the AN-1 or AN-102 to connect between the OUTPUT jack of the antenna controller and the AM EXT ANT jack of this unit.

For MW/LW reception

- 1 Use the connection cord and antenna coupler supplied with the AN-1 or AN-102 to connect between the OUTPUT jack of the antenna controller and the INPUT jack of the antenna coupler.
- 2 Position the antenna coupler near the unit where MW/LW reception is optimal.

Retract the telescopic antenna.

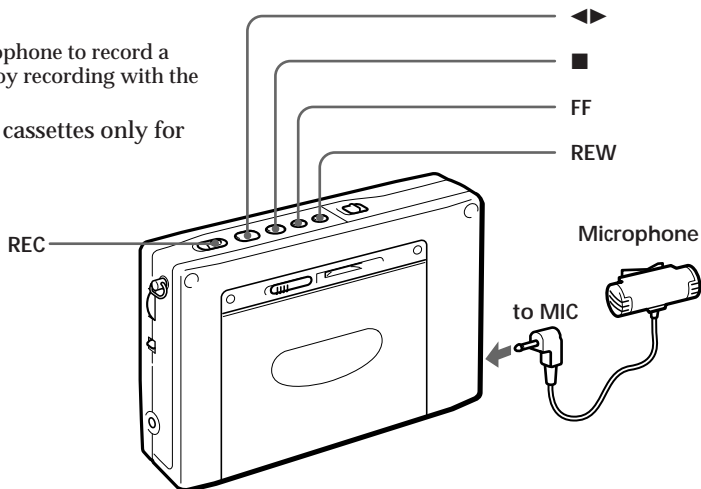
When AN-1 is used.



Recording with a microphone

Use the supplied microphone to record a meeting, or simply enjoy recording with the microphone.

Use Type I (normal) cassettes only for recording.



Notes

- If acoustic feedback (howling) occurs, turn down the volume or move the microphone away from the headphones.
- Keep the microphone away from fluorescent lights and electrical cords which may generate noise while recording.

Tip

There is no speaker output when recording with the microphone. To monitor the sound being recorded, plug the stereo headphones.

1 Insert a cassette.

Insert the cassette with the side you wish to record facing the cassette holder.

Before inserting a cassette, make sure that the cassette tab is not broken off.

A cassette with a broken tab cannot be recorded.

2 Select whether you wish to record one side or both sides of the cassette.

To record one side \Rightarrow : Press FF while pressing ■.

To record both sides \Rightarrow : Press REW while pressing ■.

3 Make sure that the cassette is inserted with the side you wish to record facing the cassette holder.

Press ◀▶ while pressing ■ to display "FWD ▷".

4 Connect the supplied microphone to the MIC jack of the unit.

5 Start recording.

To stop recording

Press ■.

To record the side facing the unit (reverse side)

Insert the cassette with the side you wish to record facing the unit (reverse side). Press ◀▶ while pressing ■ to display "◀ REV".

Recording stops on the side facing the unit regardless of whether one side or both sides is selected.

Tips

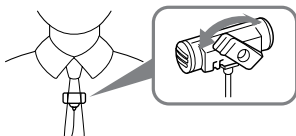
- When the supplied microphone is connected, power is supplied from the unit.

The supplied microphone is a plug-in-power type and should be connected to MIC jacks of cassette recorders that are compatible with the plug-in-power type only.

- To prevent accidental operations of the buttons, use the hold function (see page 29).

Using the supplied microphone

The clip of the supplied microphone can be swiveled in the desired direction and fastened for your convenience.



Notes on recording

Recording level

The recording level is fixed. Adjusting VOLUME and TONE does not affect the sound to be recorded.

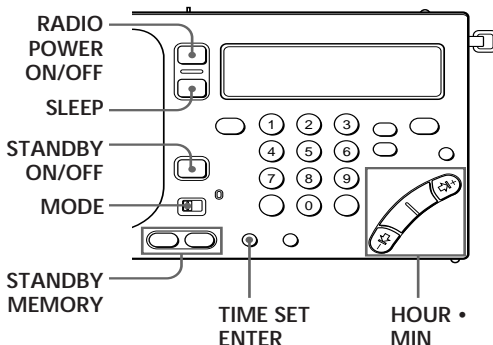
Recording with the supplied microphone

- Before inserting a cassette, make sure that the cassette tab is not broken off. A cassette with a broken tab cannot be recorded to prevent accidental recording of your important cassette. If you wish to use the cassette for recording again, cover the opening of the broken tab with adhesive tape.
- Operate REC approximately 2 seconds prior to the point you wish to begin recording. If not, the leading segment may not be recorded.
- Switching the recording side is not possible when ◀▶ is pressed during recording.

To wake up to the desired broadcast

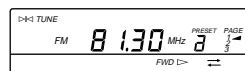
—Standby function

The standby function enables you to turn on the radio and tune in to your favorite broadcast station at the desired time. The standby function features a dual alarm so that you can enter two different preset times. Before using the standby function, make sure that the clock is set correctly (see page 5).



- 1 Tune in to the desired broadcast station you wish to preset.
- 2 Adjust VOLUME as necessary.
- 3 Press **a** or **b** of STANDBY MEMORY while pressing ENTER.

The broadcast station is assigned to the selected button.



- 4 Turn off the radio.
- 5 Press HOUR or MIN repeatedly while pressing either **a** or **b** of STANDBY MEMORY (which you pressed in step 3) to set the desired standby time for the radio to turn on.



Display the desired standby time for the radio to turn on.

Note

Make sure that the radio is turned off before setting the desired standby time. You cannot set the standby time when the radio or cassette is operating.

Tip

To temporarily cancel the standby function, slide HOLD in the direction of the arrow to display "0-n" while the radio is turned off. When "0-n" in the display disappears, the standby function is operational (see page 29).

Notes

- When you set STANDBY **a** and STANDBY **b**, and the preset standby time arrives while the other standby function is operating, the most recent standby function will have priority over the other and receive the appropriate broadcast.
- Once you preset the desired standby time, the radio turns on at the preset time everyday.
- When the preset standby time arrives while the radio or cassette is operated, the standby function will have priority over the current operation and receive the appropriate broadcast automatically.
If you set STANDBY **a** and STANDBY **b** to an identical preset time, only STANDBY **a** operates.

- 6** Press SLEEP repeatedly while pressing either **a** or **b** of STANDBY MEMORY (which you pressed in step 3) to set the desired duration for the operation of the radio.

Each time SLEEP is pressed, the display changes in the following order:

60 (minutes) → 50 → 40 → 30 → 20 → 10 → 90 → 80 → 70



Display the desired duration for the operation of the radio.

- The clock display returns when **a** or **b** is released.
- 7** Press STANDBY ON/OFF repeatedly to display "STANDBY **a**" or "STANDBY **b**" (which you selected in step 3).

Each time STANDBY ON/OFF is pressed, the display changes in the following order:

STANDBY **a** → STANDBY **b** → STANDBY **a b** → (None)



- 8** Set MODE to RADIO.

When the preset standby time arrives, the preset broadcast station is received. After the preset duration for the operation of the radio has elapsed, the radio turns off.

To check the preset standby time

Press **a** or **b** of STANDBY MEMORY. The preset standby time and preset duration for the operation of the radio are displayed while the button is pressed.

To change the preset standby time

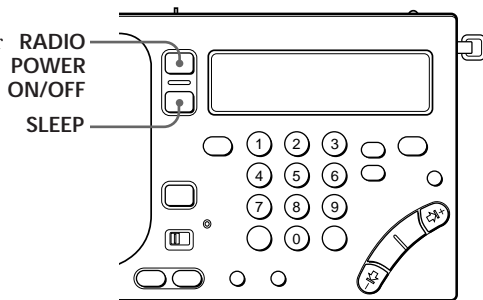
Repeat steps 5 through 7 to change the existing preset standby time.

To cancel the standby function

Press STANDBY ON/OFF repeatedly so that "STANDBY" in the display disappears.

To fall asleep while listening to the desired broadcast—sleep timer

You can turn off the radio automatically after a specified number of minutes (10–90 minutes) with the sleep timer function.



Tip

The previously tuned broadcast station is received when SLEEP is pressed to turn on the radio.

Note

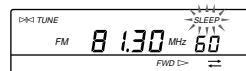
Repeat from step 1 again if the sleep timer begins before you have set the desired duration. The sleep timer begins automatically after about 5 seconds when SLEEP is released.

Note

When the sleep timer is activated while recording the radio, the recording will stop and the power will turn off.

1 Press SLEEP.

The radio turns on. “SLEEP” flashes and the duration for the operation of the sleep timer (60 minutes) appears in the display.



2 Press SLEEP repeatedly to display the desired duration for the operation of the sleep timer.

Each time SLEEP is pressed, the display changes in the following order:

60 (minutes) → 50 → 40 → 30 → 20 → 10 → 90 → 80 → 70

Sleep timer begins after “SLEEP” stops flashing and remains in the display, and the duration for the operation of the sleep timer disappears.

3 Tune in to the desired broadcast station.

The radio turns off automatically after the selected duration for the operation of the sleep timer elapses.

To change the preset duration for the operation of the sleep timer

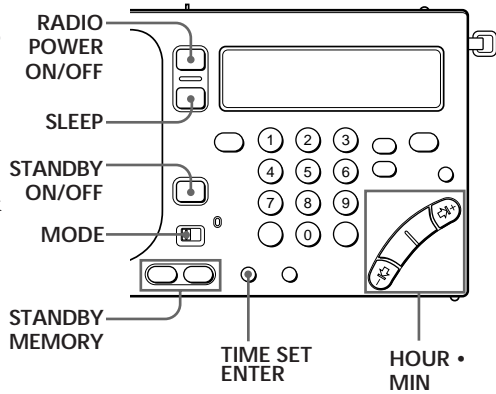
Press SLEEP repeatedly to display the desired duration for the operation of the sleep timer.

To turn off the radio before the preset duration has elapsed

Press RADIO POWER ON/OFF.

To record the desired broadcast with the timer—Timer recording

The timer recording function enables you to turn on the radio and tune in to your favorite broadcast station at the desired time for recording. Use the timer recording function when you wish to record a broadcast while away or unattended. Before using the timer recording function, make sure that the clock is set correctly (see page 5).



1 Insert a cassette.

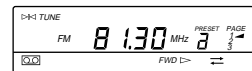
Insert the cassette with the side you wish to record facing the cassette holder.

2 Tune in to the desired broadcast station you wish to record.

Adjusting VOLUME and TONE does not affect the sound to be recorded.

3 Press **a** or **b** of STANDBY MEMORY while pressing ENTER.

The broadcast station is assigned to the selected button.



4 Turn off the radio.

5 Press HOUR or MIN repeatedly while pressing either **a** or **b** of STANDBY MEMORY (which you pressed in step 3) to set the desired standby time for the radio to turn on for recording.



Display the desired standby time for the radio to turn on for recording.

Note

Make sure that the radio is turned off before setting the desired standby time. You cannot set the standby time when the radio or cassette is operating.

Tip

To temporarily cancel the standby function, slide HOLD in the direction of the arrow to display "O-n" while the radio is turned off. When "O-n" in the display disappears, the standby function is operational (see page 29).

Notes

- When you set STANDBY **a** and STANDBY **b**, and the preset standby time arrives while the other standby function (timer recording) is operating, the most recent standby function will have priority over the other and record the appropriate broadcast.
- Once you preset the desired standby time, the radio operates at the preset time everyday.
- When the preset standby time arrives while the radio or cassette is operated, the standby function will have priority over the current operation and record the appropriate broadcast automatically.
- If you set STANDBY **a** and STANDBY **b** to an identical preset time, only STANDBY **a** operates.
- When a cassette is not inserted, or the tab of the cassette is broken, recording is not possible. Instead, the radio will receive the appropriate broadcast.

- 6 Press SLEEP repeatedly while pressing either **a** or **b** of STANDBY MEMORY (which you pressed in step 3) to set the desired duration for the operation of the radio.

Each time SLEEP is pressed, the display changes in the following order:

60 (minutes) → 50 → 40 → 30 → 20 → 10 → 90 → 80 → 70



Display the desired duration for the operation of the radio.

The clock display returns when **a** or **b** is released.

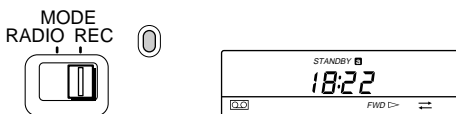
- 7 Press STANDBY ON/OFF repeatedly to display "STANDBY **a**" or "STANDBY **b**" (which you selected in step 3).

Each time STANDBY ON/OFF is pressed, the display changes in the following order:

STANDBY **a** → STANDBY **b** → STANDBY **a b** → (None)

- 8 Set MODE to REC.

The indicator beside the switch turns red.



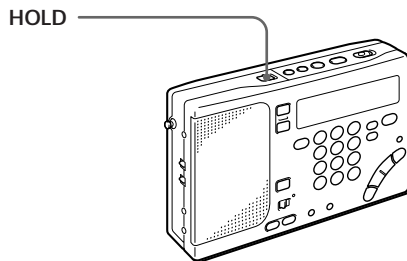
When the preset standby time arrives, the preset broadcast station is received and recorded. After the preset duration for the operation of the radio has elapsed, the radio and recording operation will turn off.

Using the hold function to prevent accidental operations

When the hold function is used, all buttons are locked and are not operational.

When carrying the unit or operating the radio or cassette, use the hold function to prevent accidental operations.

In addition, use the hold function to temporarily cancel the standby function (see pages 25 and 28).



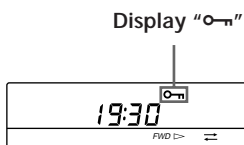
Tip

When the hold function is used, the illumination of the display is turned off.

Note

The hold function cannot be used to hold cue and review operations.

Slide HOLD in the direction of the arrow to display "⏸". All buttons are locked and are not operational when "⏸" is displayed.



To cancel the hold function

Slide HOLD in the opposite direction of the arrow so that "⏸" disappears in the display.

To temporarily cancel the standby and timer recording functions

When the hold function is used, the standby and timer recording functions are temporarily canceled.

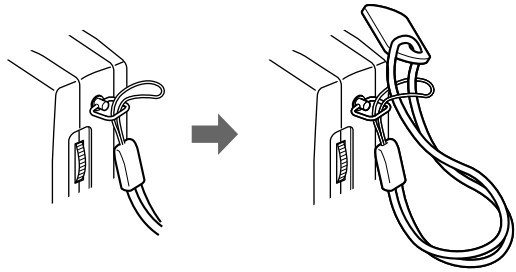
This is applicable when the radio is not operating only.

Attaching the strap

Attach the supplied strap to facilitate handling of the unit. In addition, you can use the strap as a stand.

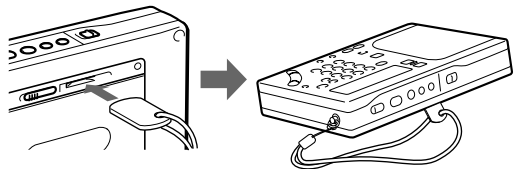
To attach

Attach the strap to the fixture on the side of the unit as shown.

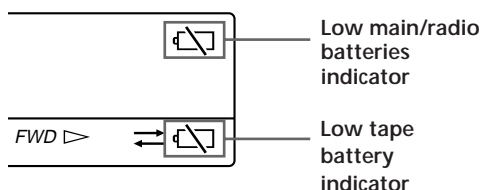


Using the stand

Insert the tab of the strap into the slot on the rear side of the unit as shown.



Replacing the batteries




Notes


- Replace the batteries within 3 minutes after the batteries are removed from the holders.

Otherwise, the preset broadcast stations and clock settings will be erased. In this case, preset the broadcast stations and set the time again.


- “” will disappear in the display when the radio or tape is operated after the batteries are replaced.


Main/radio batteries

Radio or tape stops operating, and “” will flash in the display when the main/radio batteries require replacement. Replace with two new R6 (size AA) batteries.

When the batteries are completely exhausted, “” stops flashing and remains in the display. All operations will not be possible.

Tape battery

The tape battery supplies the necessary power to drive the motor for tape operation. Sound quality will deteriorate, tape operation will become unstable, and “” will flash in the display when the tape battery requires replacement. Replace with a new R6 (size AA) battery.

When the battery is completely exhausted, “” stops flashing and remains in the display. All operations will not be possible.

Battery Life (Approximate hours)

	Sony R6 alkaline (size AA)		Sony R6 (size AA)	
	Radio batteries	Tape battery	Radio batteries	Tape battery
Tape Playback	approx. 37	approx. 11	approx. 14	approx. 3.5
Radio	FM	approx. 27	—	approx. 9
Play	AM	approx. 21	—	approx. 7
MIC recording		approx. 36	approx. 11	approx. 13
Radio	FM	approx. 18	approx. 11	approx. 6.5
Recording	AM	approx. 15	approx. 11	approx. 5

Operating with house current or car battery

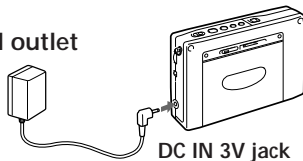
Notes

- When the AC power adaptor or the car battery cord is connected to the DC IN 3V jack of the unit, the internal batteries are automatically disconnected. Power is automatically supplied from the external power source.
- While using the wall outlet or car battery, the display is lit constantly. However, the display disappears when the Hold function is used.

House current

To operate the unit with house current, connect the optional AC power adaptor AC-E30HG (supplied for Saudi Arabia model) to the DC IN 3V jack of the unit.

to a wall outlet



Notes on the AC power adaptor

- Do not bend or twist the power cord unnecessarily and do not place heavy objects on the power cord.
- When disconnecting the AC power adaptor from the wall outlet, pull out by the plug. Do not pull the power cord.
- Disconnect the AC power adaptor from the wall outlet when the unit is not to be used for a long period of time. Make sure to pull out by the plug.

Car battery

To operate the unit with car battery, connect a car battery cord to the DC IN 3V jack of the unit.

For more details on the car battery cord, refer to its Operating Instructions manual.

Notes on external power sources

- When operating the unit with an external power source, do not remove the batteries in the RADIO BATT battery holder which serve as a backup of the memory. Replace the batteries regularly once a year.
- When operating the unit with the internal batteries, remove the AC power adaptor or car battery cord in the following order: ① disconnect from the wall outlet or car battery, and ② disconnect from the DC IN 3V jack of the unit. Make sure that the plug of the external power source is disconnected before operating the unit.
- When connecting and disconnecting the external power source plug, be sure to turn off the unit. Otherwise, the power will go off and “ \square ” may be displayed. If this occurs, turn the unit on again and “ \square ” will disappear.
- Use the recommended Sony AC power adaptor or car battery cord only. The polarity of the plugs of other manufacturers may be different. Failure to use the recommended AC power adaptor or car battery cord may lead to the malfunction of the unit.

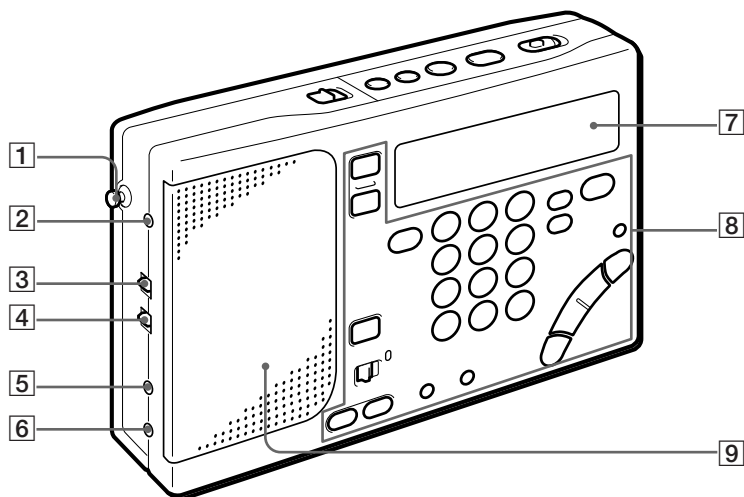


Polarity of the plug

Location of controls

Refer to the pages indicated in () for details.

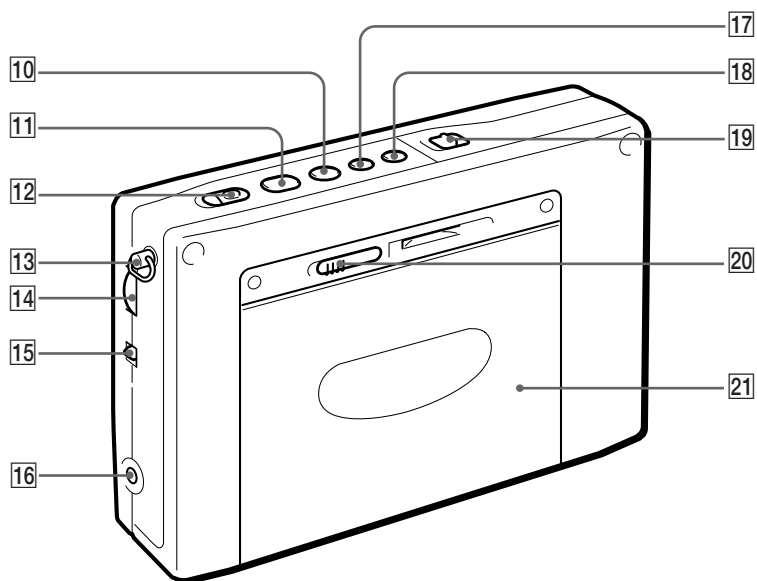
Front



- 1 Telescopic antenna (7)
- 2 AM EXT ANT jack (20)
- 3 SENS DX•LOCAL (FM/AM sensitivity) selector (7)
- 4 ST•MONO (stereo/monaural) selector (7)

- 5 MIC jack (22)
- 6 ♯ (headphones) jack
- 7 Display
- 8 Control panel
- 9 Speaker

Rear



10 ■ (stop) button (8, 9)

11 ◀▶ (play) button (8, 9)

12 REC (record) switch (11)

13 Hand strap retainer (30)

14 VOLUME control (7)

15 TONE selector (7)

16 DC IN 3V ⚡ (external power input) jack (32)

17 FF (fast forward) button (9)

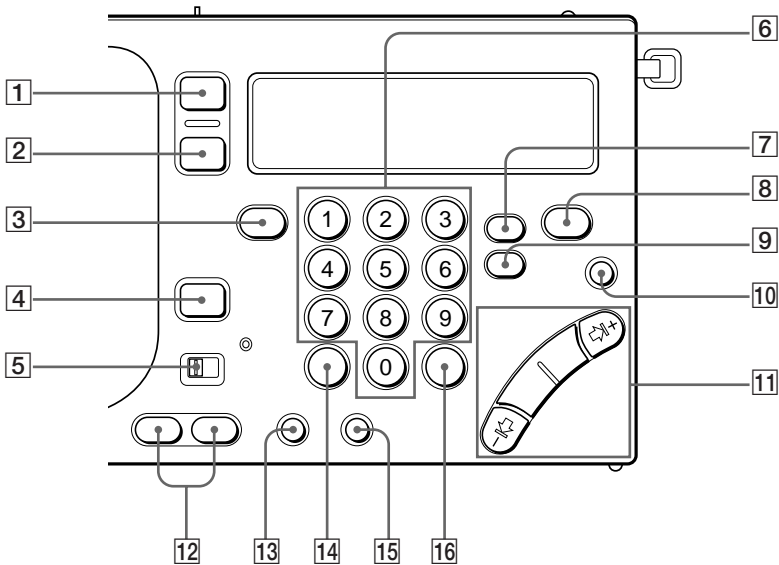
18 REW (rewind) button (9)

19 HOLD switch (29)

20 ◀ OPEN (cassette compartment opener) control (8)

21 Cassette compartment

Control panel



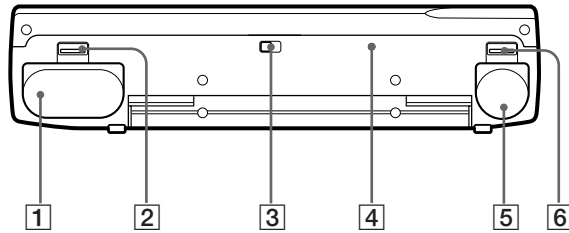
- 1** RADIO POWER ON/OFF button (6)
- 2** SLEEP button (26)
- 3** FM/AM button (6)
- 4** STANDBY ON/OFF button (24)
- 5** MODE selector (25)
- 6** MEMORY PRESET/DIRECT TUNE numeric buttons (14,15)
- 7** SYNC (Synchronous detection) button *¹ (18)
- 8** PAGE button (15,16)
- 9** SSB (Single Side Band) button *² (17)
- 10** LIGHT button
Press this button to turn on the light for about 20 seconds for display viewing in the dark.

- 11** MANUAL TUNE/SCAN•STANDBY TIME SET/TIME SET buttons (6)
- 12** STANDBY MEMORY•STANDBY TIME SET buttons (24,27)
- 13** ENTER•TIME SET button (5,15)
- 14** DIRECT button (14)
- 15** AM BAND button (6)
- 16** EXE•DISPLAY button (5,14)
Press this button to display the clock while operating the radio or cassette.
Press again to return to the previous display.

*¹ SYNC U button for the Saudi Arabian model.

*² SYNC L button for the Saudi Arabian model.

Base



1 RADIO BATT battery holder (4)

2 OPEN (RADIO BATT opener) control (4)

3 ISS (AM interference suppression) selector (11)

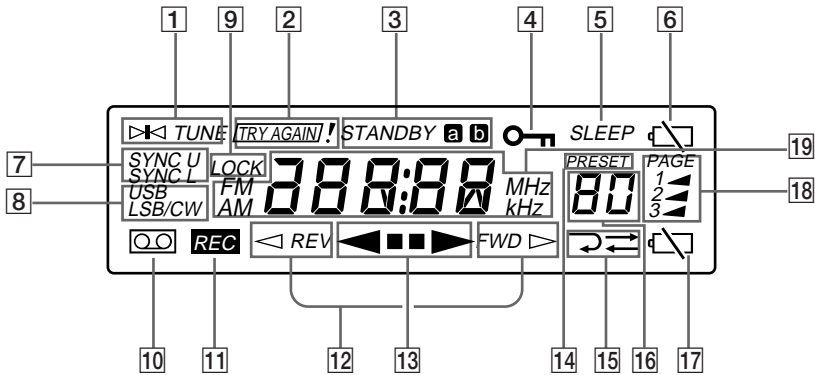
4 RESET button

Press this button with a pointed object when the unit fails to function properly. When this button is pressed, the preset broadcast stations and the clock settings are erased.

5 TAPE BATT battery holder (4)

6 OPEN (TAPE BATT opener) control (4)

Display



- 1 TUNE indicator (14)
Appears when a broadcast station is tuned.
- 2 TRY AGAIN! indicator (14, 19)
Flashes when an invalid MW tune interval or an invalid frequency (direct tuning) is entered.
- 3 STANDBY **a**/**b** indicators (24, 27)
Appear when the standby function is operational.
- 4 HOLD indicator (29)
Appears when the HOLD function is operational. All buttons will be locked and will not be operational.
- 5 SLEEP indicator (26)
Appears when the sleep timer is operational.
- 6 (low radio batteries) indicator (31)
- 7 SYNC U/SYNC L (synchronous detection) indicators (18)
- 8 USB/LSB/CW (single side band/continuous wave) indicators * (17)
- 9 LOCK (synchronous detection) indicator (18)
Appears when synchronous detection mode is operational.
- 10 (cassette) indicator
Appears when a cassette is inserted.
- 11 REC (record) indicator
- 12 (tape direction) indicators (8)
 appears when the current tape direction is the side facing the unit (reverse side). appears when the current tape direction is the side facing the cassette compartment cover.
- 13 (tape operation) indicators
- 14 PRESET indicator
- 15 (playback/recording mode) indicators (8)
- 16 Preset number/sleep duration display (15, 16, 26)
- 17 (low tape battery) indicator (31)
- 18 PAGE (page number) indicators (15)
- 19 Frequency/time/tape operation display

* Not applicable for the Saudi Arabian model.

Precautions and Maintenance

On battery

- Insert the batteries with the correct polarity.
- Do not mix new and used batteries.
- The batteries cannot be charged.
- Remove the batteries when the unit will not be used for a long time.
- Should any battery leakage occur, wipe the battery case well and install new batteries.

On placement

- Do not leave the unit in a location near heat sources, or in a place subject to direct sunlight, excessive dust or mechanical shock.
- If the unit is left in a car parked in the sun, be sure to choose a location in the car where the unit will not be subjected to the direct rays of the sun.
- Use the unit within a temperature range of 0°C to 40°C (32°F to 104°F). If it is used in temperatures outside this range, an irregular display (i.e., 88.88...) may appear. If it is used in temperatures lower than this range, the display may change very slowly. These irregularities will disappear and there will be no damage to the unit when the unit is used in its recommended temperature range.
- In vehicles or buildings, radio-reception may be difficult or noisy. Try listening near a window.
- Reception of around 3.64 MHz may be difficult because of internal spurious signals generated by the built-in oscillators.

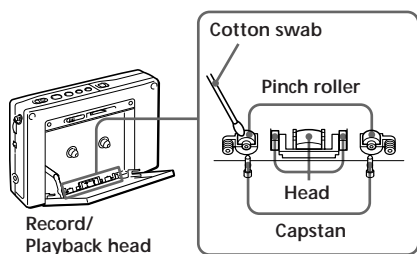
On safety

- Should any solid object or liquid fall into the unit, unplug the unit, and have it checked by qualified personnel before operating it any further. Make sure that no liquid or foreign material enters the DC IN 3V jack of the unit. This may lead to the malfunction of the unit.
- When the casing becomes soiled, clean it with a soft dry cloth dampened with mild detergent solution. Never use abrasive cleansers or chemical solvents, as they may mar the casing.
- Since a strong magnet is used for the speaker, keep personal credit cards using magnetic coding or spring-wound watches away from the unit to prevent them from possible damage caused by the magnet.
- When there is lightning and you are using an external antenna, immediately disconnect the AC power adaptor (if connected) from the wall outlet. Never touch the antenna wire when there is a lightning storm.
- Never connect a ground wire to a gas pipe

On cassette-corder

Cleaning the tape head and tape path

Use the optional cleaning tape Sony KK-WM1 to clean the heads, pinch rollers and capstans regularly after 10 hours of operation for optimum playback and recording quality.



When the unit is not used for an extended period of time

The first few minutes of the operation may be unstable following an extended period of non-usage.

Use of a cassette with more than 90 minutes of play time

The use of a cassette with more than 90 minutes of play time is not recommended except for long, continuous recording or playback.

Service and repair



When bringing your unit for service and repair, take note of your important settings in the memory. The settings may be deleted depending on the type of repair necessary.

If you have any questions or problems concerning your unit, please consult your nearest Sony dealer. Make a note of your important preset broadcast stations prior to servicing by qualified personnel.

Troubleshooting

Troubleshooting describes possible causes and remedies for common problems you may have with your unit.

	Symptom	Cause	Remedy
General	The buttons are not operating.	<ul style="list-style-type: none"> The HOLD function is operating. 	<ul style="list-style-type: none"> Slide HOLD in the opposite direction of the arrow so that "⏻" in the display disappears.
	The power is not turned on when RADIO POWER ON/OFF is pressed.	<ul style="list-style-type: none"> Incorrect polarity of batteries. The batteries are weak ("⏻" flashes in the display). The AC power adaptor or car battery cord is disconnected. 	<ul style="list-style-type: none"> Insert the batteries with the correct $\oplus\ominus$ polarity. Replace with new batteries. Check and make sure that the AC power adaptor or car battery cord is connected properly.
	The display is not operating.	<ul style="list-style-type: none"> Incorrect polarity of batteries. The batteries are weak ("⏻" flashes in the display). 	<ul style="list-style-type: none"> Insert the batteries with the correct $\oplus\ominus$ polarity. Replace with new batteries.
	The display is dim.	<ul style="list-style-type: none"> The unit is being used in extremely low temperatures or in a place with excessive moisture. 	<ul style="list-style-type: none"> Avoid subjecting the unit to extremely high temperatures or excessive moisture.
	The display appears slowly.	<ul style="list-style-type: none"> The unit is being used in extremely low temperatures. 	<ul style="list-style-type: none"> Avoid subjecting the unit to extremely low temperatures.
	There is no sound output.	<ul style="list-style-type: none"> VOLUME is turned down completely. The stereo headphones are plugged in. Incorrect polarity of batteries. 	<ul style="list-style-type: none"> Adjust VOLUME to the desired setting. Unplug the stereo headphones as necessary. Insert the batteries with the correct $\oplus\ominus$ polarity.

Symptom	Cause	Remedy
Poor reception or unsatisfactory sound quality.	<ul style="list-style-type: none"> The batteries are weak (“”) flashes in the display). Tuning and antenna orientation requires further adjustment. The radio signal is weak. 	<ul style="list-style-type: none"> Replace with new batteries. Adjust tuning and the orientation of the antenna for optimum reception. Listen to the radio near a window when in a vehicle or building. Set SENS to DX.
Direct tuning is not operating.	<ul style="list-style-type: none"> Each button operation was not completed within 10 seconds. 	<ul style="list-style-type: none"> Press the next button within 10 seconds.
Presetting your favorite broadcast station is not possible.	<ul style="list-style-type: none"> An incorrect procedure is completed. 	<ul style="list-style-type: none"> Press a numeric button (0-9) while pressing ENTER (see page 15).
Instant recall of a preset broadcast station is not possible.	<ul style="list-style-type: none"> The number entered for the preset broadcast station is incorrect. The preset broadcast stations are erased because the batteries were not replaced within 3 minutes after their removal from the holders. 	<ul style="list-style-type: none"> Enter the correct button assigned to the desired preset broadcast station. Preset the broadcast stations again (see page 15).
The radio is not turned on when the preset standby time arrives.	<ul style="list-style-type: none"> STANDBY ON/OFF is not pressed. The HOLD function is operating. The preset standby time is erased because the batteries were not replaced within 3 minutes after their removal from the holders. VOLUME is turned down completely. 	<ul style="list-style-type: none"> Press STANDBY ON/OFF to successfully preset the standby time (see page 24). Slide HOLD in the opposite direction of the arrow so that “” in the display disappears. Preset the standby time again. Adjust VOLUME to the desired setting.

Troubleshooting (continued)

	Symptom	Cause	Remedy
Cassette-Corder	The cassette recorder is not operating.	<ul style="list-style-type: none"> The HOLD function is operating. The batteries are not inserted into the RADIO BATT battery holder. The battery in the TAPE BATT battery holder is weak ("⊖" flashes in the display). 	<ul style="list-style-type: none"> Slide HOLD in the opposite direction of the arrow so that "⊖" in the display disappears. Insert two R6 (size AA) batteries into the RADIO BATT battery holder. Replace with a new battery.
	Playback and recording of both sides of the cassette is not possible.	<ul style="list-style-type: none"> ◀▶ is pressed while pressing ■ to display "◀ REV". 	<ul style="list-style-type: none"> Press ▶◀ while pressing ■ to display "FWD ▷".
	Recording is not possible.	<ul style="list-style-type: none"> The cassette tab of the tape is broken off to prevent accidental recording of your important tape. 	<ul style="list-style-type: none"> If you wish to use the tape for recording again, cover the opening of the broken tab with adhesive tape.
	The timer recording function is not operating when the preset standby time arrives.	<ul style="list-style-type: none"> MODE is set to RADIO. 	<ul style="list-style-type: none"> Set MODE to REC.
	A stereo-recordable source is recorded as monaural recording.	<ul style="list-style-type: none"> ST•MONO is set to MONO. 	<ul style="list-style-type: none"> Set ST•MONO to ST.
	The sound output is poor and drops out.	<ul style="list-style-type: none"> The tape head is dirty and requires cleaning. 	<ul style="list-style-type: none"> Clean the tape head and tape path (see page 39).

Specifications

Radio section

Circuit system

FM: Super heterodyne

AM: Dual conversion super heterodyne

Frequency range

FM: 76–108 MHz

87.5–108 MHz (for the Saudi Arabian model)

SW: 1,621–29,999 kHz

1,621–26,100 kHz (for the Saudi Arabian model)

MW: 530–1,620 kHz

LW: 150–529 kHz

150–285 kHz (for the Saudi Arabian model)

Intermediate frequency

FM: 10.7 MHz

SW/MW/LW: 55.845 MHz (1st)

455 kHz (2nd)

Cassette-Corder

Track system

Compact cassette stereo

Frequency response

Playback: 20-18,000 Hz

Recording/Playback: 70-8,000 Hz

General

Speaker

Approx. 45 mm (1¹³/₁₆ inches) diameter, 8 ohms, one speaker system

Maximum output

250 mW (at 10 % harmonic distortion)

Power requirements

RADIO BATT: DC 3 V, two R6 (size AA) batteries

TAPE BATT: DC 1.5 V, one R6 (size AA) battery

External power source

DC 3 V

Output

One \ominus (headphones) jack (stereo minijack)

16 ohms

Input

One mixing microphone input jack (stereo minijack)

Dimensions

Approx. 176 x 105 x 40 mm (w/h/d)

(7 x 4¹/₄ x 1⁵/₈ inches incl. projecting parts)

Mass

Unit approx. 464 g (1 lb 0.4 oz)

Approx. 593 g (1 lb 4.9 oz) incl. alkaline batteries, C-60HF tape, headphones, and strap

Supplied accessories

Stereo headphones (1)

Ear pads (2)

Stereo microphone (1)

Compact antenna AN-71 (1) *¹

Active antenna AN-LP1 (1) *²

Antenna connector (1) *³

Carrying case (1)

Hand strap (1)

Wave Handbook (1) *⁴

Shortwave Guide (1) *⁵

Batteries (3) *³

AC power adaptor (1) *⁵

Optional accessories

AC power adaptor AC-E30HG *⁶

LW/MW/SW wide range antenna AN-1, AN-102

Your dealer may not handle some of the above listed optional accessories. Please ask your dealer for detailed information on the optional accessories available in your country.

Design and specifications are subject to change without notice.

*¹ ICF-SW1000T only

*² ICF-SW1000TS only

*³ For the World model only.

*⁴ Not applicable for the Saudi Arabian model.

*⁵ For the Saudi Arabian model only.

*⁶ The operative voltage for the AC power adaptor is varied depending upon the country in which it is sold. Therefore, purchase the AC power adaptor in the country you intend to use it.

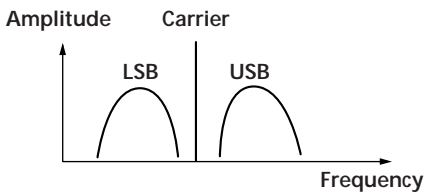
Tips on radio waves

What is SSB (Single Side Band)?

SSB is very popular among ham and business radio transmissions, and is commonly used in many amateur bands because of its superiority in signal intelligibility. Its impressive signal intelligibility is achieved with minimum interferences when compared to DSB (Double Side Band) owing to its half bandwidth structure.

In general, SSB transmissions employ the USB (Upper Side Band) modulation, while amateur band transmissions below 10 MHz employ the LSB (Lower Side Band) modulation.

Conventional radios without a BFO (Beat Frequency Oscillator) circuit cannot receive SSB transmissions successfully. This unit can receive SSB transmissions successfully with the built-in BFO (Beat Frequency Oscillator) circuit.



What is CW (Continuous Wave)?

CW is also popular among ham and business radio transmissions. Unlike other signals, the amplitude of a carrier is not modulated for CW transmissions. CW transmissions convey information by interrupting the carrier and use Morse code as a means of communication.

This unit can receive CW transmissions successfully with the built-in BFO (Beat Frequency Oscillator) circuit as beat sound only. To fully comprehend the information transmitted by CW transmissions, an understanding of the Morse code is prerequisite.

What is synchronous detection?

There are two underlying obstacles in optimum AM reception: distortions due to fading and interferences from adjacent broadcast stations.

The synchronous detection is effective in solving these obstacles.

Distortions due to fading are generally caused by over-modulation which occurs when a carrier component of the received signal is attenuated along the way. The synchronous detection circuit of this unit generates a pure carrier frequency with no level variation which is ideally synchronized with the original carrier to compensate for the attenuated carrier component, thus dramatically reducing distortion.

Likewise, AM (LW, MW, and SW) broadcast generally employs DSB (Double Side Band) signals for transmissions in which the modulated signals are transmitted using both the upper and lower side bands (USB and LSB). In most cases, one of the side bands is affected by interferences from adjacent broadcast stations (i.e., beats). The synchronous detection circuit of this unit extracts one of the two sides (USB or LSB) of the DSB (Double Side Band) signal which is free from interferences. This allows clear reception without the interferences from adjacent broadcast stations.

